國法學院編纂

權利義務實行法

東京

錦繡堂書籍出版部

特15
47

國法學院編纂

權利義務實行法

明治
37 4 13
内交

東京 錦繡堂書籍出版部

緒

往昔未開ノ時代ニアリテハ人々水草ヲ逐フテ轉居シ其生活ノ狀態殆ト禽獸ト相去ル遠カラサリシカ漸次部落ヲ成スニ至リ有無相通シ相稗補シ彼我ノ利益ヲ交換シテ自然社交ヲ結フニ至レリ此ノ如ク人々群成シテ生活スル狀態ヲ汎ク觀察シテ則社會トハ稱スルナリ然レトモ野蠻ノ社會ニアリテハ呑噬ノ慘害絶ヘス弱肉强食殆ント其弊ニ堪ヘサリキ茲ニ於テカ生存ノ必要上種族互ニ團體ヲ組織シテ自衛ノ道ヲ講シ外ハ以テ劫寇ヲ防禦シ内ハ規約ヲ設ケテ非違ヲ正シ依テ以テ各人守ル所ヲ明ニス是則ナ國家ノ原始トス」國家ハ一定ノ領土アリテ主權者之ヲ統轄シ外ニ向テハ通商貿易ヲ護シ宣戰交和

シ(外交)以テ利福ヲ增進シ內ニ在テハ各人ノ權利利益ヲ
平等ニ保護シテ殖産興業ノ發達ヲ圖ル(內治)之ヲ稱シテ
政治トハ云フナリ而シテ之ヲ統ルノ原權ヲ統治權ト云
フ統治權ヨリ分レテ立法權施行權ナルモノ生ス立法權
トハ天皇ヲ翼贊シテ貴衆兩院及ヒ政府ニ於テ法律ヲ制
定シ裁可ヲ經テ發布スルヲ云ヒ施行權トハ其法律施行
ノ任ニ當ルヲ云フ各省各官衙ノ職務トスル所之レナリ
施行權又行政司法ノ二種ニ分別スルヲ得ヘシ裁判所ノ
職務ハ主トシテ司法事務ニシテ各省及ヒ各官衙ノ職務
ハ專ラ行政事務ニ屬ス是皆政治團體卽チ國家ノ安寧ヲ
維持シ利益ヲ增進スルノ方法手段ニ外ナラスシテ其根
原ヲ推ストキハ生存上ノ必要ヨリ發生シタルモノト云

フ可キナリ」國家ノ組織ヲ明ニシ上御一人ヨリ下一個人
ニ至ル權利關係及ヒ本分ヲ規定シタル條章ヲ憲法ト云
フ憲法ハ國家基本ノ法則ニシテ其範圍內ニ於テ發布ス
ルモノヲ法律命令トス法律ハ各個人ト國家及ヒ各個人
相互ノ權利義務ヲ規定シタルモノニシテ自然ノ法則ト
慣習トヲ參酌シテ制定シタルモノニ外ナラス而シテ其
發布手續ハ既ニ解說シタル所ノ如シ命令ハ立法上ノ委
任ニヨリ法律ノ施行其他ノ必要ヨリ一定ノ權限內ニ於
テ罰則ヲ附シ發布スルモノニシテ敕令閣令府縣令是ナ
リ」法律命令ニシテ一定ノ方式ニヨリ發布シタルモノハ
必ス遵奉スルノ義務ヲ生ス抑各人カ有スル所ノ自由ノ
行動ハ其性格上自然ノ法則ニ支配セラレサルヲ得ス自

然ノ法則トハ何ソ即チ法律命令是レナリ法律命令ハ實ニ自由ノ限界ヲ示シタルモノニシテ法律命令ノ範圍内ニ於ケル行動コソ眞ニ天賦ノ自由ト謂ヘキナリ」以上述フルカ如ク國家ノ組織權限ヨリ一個人ニ至ル權利關係ヲ明ニシ秩然トシテ諸般法度ノ整備シタルハ近キ時代ノ事ニシテ殊ニ我國ニ在リテハ實ニ數年前ノ事ニ屬ス昔者法三章ヲ約シタルカ如キ時代ニ在テハ各人ノ思想單純ニシテ而カモ武力ノ壓抑盛ニ行ハレタル時ニテアリキ近世ニ至リ人文漸ク繁ク人智駿々トシテ進ムノ時ニ際シ法令ノ緻密周到ニ至レルハ自然ノ勢ニシテ法律以テ秩序ヲ維持シ安寧ヲ保護シ生命自由財産ヲ安全ナラシメ依テ以テ利福ノ增進ヲ圖ル之ヲ稱シテ法治國ト

ハ云フナリ歐米各國及我國ニ於ケル如シ」然レトモ我帝國ノ狀態ヲ見ルニ法律制度ノ完備ヲ得タルカ如クナルモ一時ニ歐西各國ノ精緻ナル法度ヲ參酌輸入シタルヲ以テ民衆未タ其法令ニ通曉セス殆ント五里霧中ニ彷徨スルノ感ナキヲ得ス自已ノ權利ヲ認ムルモ之ヲ主張シ之ヲ保全センニハ其法則手續ヲ知ラサル可ラス委任ヲ以テセンカ多額ノ費用ヲ要スルノミナラス時ニ或ハ奸譎ノ徒ノ爲メニ利益ヲ壟斷セラルヽコトナシトセス爲メニ主張シ得ヘキ權利ヲ不問ニ附スルモノ其數蓋シ尠少ナラサル可シ又法律上義務ヲ盡スノ意ナキニ非ラス然レトモ其多數ノ法則ヲ了知スルハ至難ノ事ニ屬スル而カモ法令ハ其不知ヲ以テ辨解ノ辭ト爲スヲ許サス往

々ニシテ罰金等ノ處罰ヲ科セラルヽカ如キ眼前其事例ニ之シカラス之レ余カ不敏ヲ顧ミス本書ヲ編纂シテ其不利不安ヲ除去セント欲スル所以ナリ」終リニ臨ンテ權利義務ノ本義ニ付テ一言スヘシ權利ニハ自然ト人爲トアリ其自然ノ權利ハ法律ノ關スル所ニ非ス人爲上ノ權利ニ付テハ法律ノ保護ヲ得テ其利益ヲ保全セサル可ラス要スルニ權利トハ人爲上ヨリ其ノ利益ノ伴フ事物ヲ法律ノ保護ニヨリ之ヲ獲取シ之ヲ保全スル勢力ヲ云フモノナリ義務ニハ道德上ノ義務ト法律上ノ義務トアリ道德上ノ義務ハ暫ク措キ法律上ノ義務トハ法令ノ命スル所ニ遵依シテ動止行爲(不爲)スルヲ云フ」以上余ハ本書編纂ノ理由ヲ明ニセンカ爲メ必要諸科ニ付テ畧言セリ

前陳諸科ニ於ケル定義ハ學者間猶論決ヲ見サルモノアリ從テ意味深淵到底限リアル紙數ノ得テ盡ス所ニ非ス而カモ余ハ數言ノ下ニ之ヲ說了シ去レリ余ハ自ラ其勇氣ニ驚カサルヲ得ス然レトモ亂雜冗長ハ各人ノ厭フ所ニシテ又本書ノ主眼トスル所ニ非ス只本書閱覽ノ參考上其一班ノ趣旨ヲ了スルヲ以テ足ル要スルニ確然タル法律整備ノ時ニ當リ苟モ權利ノ主張ス可キモノアラハ遲滯ナク實行シテ其利益ヲ保持シ獲得シ彼ノ窃カニ正義ヲ無視シ冷笑シツヽ白晝猶濶歩スル破廉耻漢ヲシテ屏息スルノ手段ヲ講スヘク法律ノ命スル所ハ之ヲ遵奉シテ其屈出等ノ義務ヲ怠ルナク以テ不時ノ處罰ヲ招クカ如キ不利不名譽ヲ來スナカラン事ハ實ニ法治國民ノ

本分ト謂フ可クシテ本書ノ希求スル所亦之ニ外ナラス・讀者幸ニ之ヲ諒セラレヨ

明治三十七年三月

編者識

權利義務實行法目次

緒言……一

第一編　民事訴訟ニ關スル件……二

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續……二

第一節　出訴手續……二

第二節　準備書面ノ意義……六

第三節　口頭辯論順序……八

第四節　判決ニ關スル件……一一

第五節　欠席判決ニ關スル件……一三

第六節　故障申立方法……一四

第七節　強制執行ニ付執達吏委任手續……一四

第八節　期日及ヒ期間ニ關スル件……一五

第九節　訴訟上須知要件……一七

第一款　證據ニ關スル件……一七

第二款　證據保全ニ關スル件……一一〇
第三款　權利拘束ノ意義……一一一
第四款　防訴ノ抗辯ニ關スル要件……一一二
第五款　訴訟參加ノ件……一一三
第六款　除付及忌避ニ關スル件……一一五
第七款　訴訟能力者ニ關スル件……一二八
第八款　保證ニ關スル件……一三〇
第九款　訴訟上ノ救助ニ關スル件……一三三
第十款　懈怠ノ結果原狀回復ニ關スル件……一三四
第十一款　訴訟費用ノ件……一三五
第二章　區裁判所ノ訴訟手續……一三六
第一節　出訴手續……一三九
第二節　和解方法……三九
第三節　督促手續……四〇
第三章　上訴手續……四〇
四二

第一節　控訴ニ關スル件……四三
第二節　上告ニ關スル件……四四
第三節　抗告ニ關スル件……四六
第四節　再審ニ關スル件……四七
第四章　證書訴訟及ヒ爲替訴訟手續……五一
第五章　强制執行ニ關スル件……五三
第一節　强制執行ニ關スル總則……五三
第二節　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行手續……六〇
第一款　動產ニ對スル强制執行……六〇
第一項　動產ニ對スル强制執行通則……六一
第二項　有體動產ニ對スル强制執行手續……六一
第三項　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行手續……六四
第二款　不動產ニ對スル强制執行……六九
第三節　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行手續……七一

第四節　假差押及ヒ假處分手續……七三
第六章　公示催告手續……七五
附錄……七七
取得時效及ヒ消滅時效ニ關スル件……七七
利息制限ニ關スル件……八二
第二編　刑事訴訟ニ關スル件……八三
第一章　出訴手續……八三
第一節　告訴ニ關スル件……八三
第二節　告發ニ關スル件……八六
第三節　起訴豫審進行順序……八六
第四節　公判順序……八八
第五節　欠席判決ニ關スル件……九〇
第二章　刑事訴訟上須知要件……九一
第一節　公訴私訴ノ時效……九一
第二節　被告人損害ノ賠償ヲ要ムルヲ得ル場合……九三

第三節　書類作成方ノ件……九三
第四節　告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ關スル件……九四
第五節　現行犯罪及ヒ其取扱要件……九六
第六節　豫審ニ關スル件……九七
第七節　令狀ノ解……九八
第八節　證據ニ關スル件……一〇〇
第一款　證據及ヒ其判斷ニ關スル件……一〇〇
第二款　家宅捜索物件差押ニ關スル件……一〇一
第三款　被告人訊問ニ關スル件……一〇二
第四款　證人訊問及ヒ證言ヲ拒ムヲ得ル場合ニ關スル件……一〇三
第五款　鑑定人ニ關スル件……一〇五
第八節　無能力者及法律上代理人民事證當人ニ關スル件……一〇六
第九節　保釋手續……一〇八
第十節　責付ニ關スル件……一〇九

第十一節　辯護人選用方ノ件……一一〇
第十二節　補佐人ノ辯論ニ與ルヲ得ルノ件……一一〇
第三章　上訴手續……一一一
第一節　控訴ニ關スル件……一一一
第二節　上告ニ關スル件……一一三
第三節　抗告ニ關スル件……一一六
第四節　再審ニ關スル件……一一六
第四章　復權手續……一一八
第三編　人事訴訟ニ關スル件……一一八
第一章　婚姻事件ニ關スル件……一一八
第一節　婚姻ノ無效及ヒ取消ニ關スル件……一一九
第二節　離婚ニ關スル件……一二一
第三節　夫婦同居ニ關スル件……一二三
第二章　養子緣組事件ニ關スル件……一二三
第一節　緣組ノ無效及ヒ取消ニ關スル件……一二三

第二節　離緣ニ關スル件……一二六
第三章　親子關係事件……一二七
第一節　子ノ否認認知ニ關スル件……一二七
第二節　親權事件……一二九
第四章　相續人廢除ニ關スル件……一三二
第五章　隱居事件ニ關スル件……一三五
第六章　禁治產及ヒ準禁治產者ニ關スル件……一三八
第七章　失踪ニ關スル件……一三九
第四編　非訟事件手續法……一四三
第一章　總則ニ關スル件……一四三
第二章　民事非訟事件……一四六
第一節　法人ニ關スル件……一四七
第二節　財產ノ管理ニ關スル件……一五〇
第三節　裁判上代位ニ關スル件……一五五
第四節　保存供託保管及ヒ鑑定ニ關スル件……一五七

目　次

第五節　隱居廢家子ノ懲戒家督相續人及ヒ親族會ニ關スル件……一六二
第六節　相續人ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル件……一六九
第七節　遺言ノ確認及ヒ執行……一七一
第五編　戸籍法ニ關スル件……一七五
第一章　身分ニ關スル屆出手續……一七五
第二章　屆出期間ニ關スル件……一八二
第三章　抗告手續……一八二
第四章　罰則ニ關スル件……一八二
第六編　登記法ニ關スル件……一八三
第一章　一般ニ關スル登記手續……一八五
第二章　所有權ニ關スル登記手續……一八五
第三章　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續……一九〇
第四章　抹消ニ關スル登記手續……一九四
第五章　抗告手續……一九九
……二〇〇

目　次

○書類方式
○民事ニ關スル書式
○管轄裁判所指定申請書式
○裁判管轄ニ付合意申立書式
○訴狀書式〔貸金請求ノ訴〕
○訴狀書式〔賣掛代金請求ノ訴〕
○訴狀書式〔宿泊料請求ノ訴〕
○訴狀書式〔家賃請求ノ訴〕
○訴狀書式〔家屋明渡及ヒ延滯家賃請求ノ訴〕
○訴狀書式〔賣買契約履行ノ訴〕
○訴狀書式〔契約解除損害賠償ノ訴〕
○訴狀書式〔名譽回復損害賠償ノ訴〕
○答辯書式
○訴狀取下書式
○訴狀取下書式
○判決書送達申立書式
○判決更正申立書式
○判決補充申立書式
○故障申立書式
○仝取下書式
○期日變更申請書式
○期間伸長申請書式
○人證申立書式
○不參屆書式
○證言拒絕申立書式
○證人忌避申立書式
○決定取消申立書式

○證書提出方命令申請書式
○證書圖面取寄方申立書式
○檢眞申立書式
○證書ノ眞否確定申請書式
○檢證申立書式
○鑑定申立書式
○證據保全申立書式
○答辯書中ニ反訴ヲ爲ス書式
○反訴書式
○主參加書式
○本訴中止ノ申立書式
○從參加申請書式
○訴訟ヨリ脫退申立書式
○訴訟告知書式
○忌避申請書式
○特別代理人選任申請書式
○委任狀書式
○訴訟上救助申請書式
○原狀回復申立書式
○訴訟費用確定決定申請書式
○口頭辯論期日短縮申立書式
○和解ノ爲メ呼出申立書式
○支拂命令申請書式
○支拂命令ニ對スル異議申立書式
○執行命令申請書式
○訴訟記錄閱覽申請書式
○謄本及ヒ抄本付與申請書式
○控訴狀書式
○答辯書式

○上告狀書式
○答辯書式
○抗告狀書式
○再審ノ訴狀書式
○執行力アル正本ヲ求ムル申立書式
○執行文付與ニ對スル異議申立書式
○執行ニ關スル異議申立書式
○差押命令申請書式
○強制競賣申立書式
○競賣申立取下書式
○債務者ノ行爲不爲ニ關スル申立書式
○債務者ノ行爲不爲ニ關スル申立書式
○假差押申請書式
○假差押命令ニ對スル異議申立書式
○假處分申請書式
○公示催告申立書式
○除權判決申立書式

○刑事ニ關スル書式

○告訴狀書式〔竊盜事件〕
○告訴狀書式〔詐欺取財事件〕
○告訴狀書式〔拐帶事件〕
○告訴狀書式〔毆打創傷事件〕
○告訴狀書式〔器物毀棄事件〕
○告訴狀書式〔委托金費消事件〕
○告訴狀書式〔私印私書僞造行使事

件

○告訴取下書式
○委任狀書式
○增減變更申立書式
○私訴申立書式
○告發狀書式
○被告人逮捕ニ付テノ告訴(告發)書式○答辯書式
○不參屆書式
○旅費日當請求書式
○保釋願書式
○保釋ニ付テノ保證書式
○保釋不許ニ對スル異議申立書式
○責付證書式
○補佐人屆書式
○故障申立書式

目次

○控訴狀書式
○答辯書式
○控訴取下書式
○上告狀書式
○上告趣意書式
○上告取下書式
○抗告狀書式
○再審ノ訴趣意書式
○復權願書式

○人事訴訟ニ關スル書式

○婚姻無効ノ訴狀書式
○婚姻取消ノ訴狀書式
○離緣ノ訴狀書式
○夫婦同居ノ訴狀書式

目次

○緣組無效ノ訴狀書式
○緣組取消ノ訴狀書式
○離婚ノ訴狀書式
○子ノ否認ノ訴狀書式
○私生子認知ノ訴狀書式
○認知無效(取消)訴狀書式
○親權喪失ヲ目的トスル訴狀
○失權取消ノ訴狀書式
○財產管理權喪失宣言ノ取消訴狀書式
○推定家督相續人廢除ノ訴狀書式
○推定遺產相續人廢除ノ訴狀書式
○推定家督相續人廢除取消ノ訴狀書式
○禁治產宣言申立書式

目次

○禁治產取消申立書式
○禁治產宣告不服ノ訴狀書式
○失踪宣告公示催告申立書式
○失踪宣言申立書式
○失踪宣言判決不服ノ訴書式

○非訟事件ニ關スル書式

○財團法人名稱事務所理事任免方
○法指定申請書式
○假理事選任申請書式
○特別代理人選任申請書式
○清算人選任申請書式
○清算人解任申請書式
○財產管理人選任申請書式
○財產管理人解任申請書式
○任務辭任屆書式

目次

○財産賣却許可申請書式
○權限外處分許可申請書式
○裁判上代位申請書式
○證書保存者指定申請書式
○供托所指定申請書式
○供托物保管者選任申請書式
○競賣許可申請書式
○隱居許可申請書式
同上書式
○婚姻ニ因リ他家ニ入ラントスルトキ許可申請書式
○廢家許可申請書式
○懲戒處分申請書式
○期日短縮申請書式
○家督相續人選定順序變更申請書式○出生届書式
○家督相續人選定許可申請書式
○親族會招集申請書式
○親族會員辭任申請書式
○親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判申請書式
○相續人承認拋棄期間伸長申請書式
○相續限定承認申述書式
○相續拋棄申述書式
○遺言執行者選任申請書式
○遺言執行者解任申請書式
○遺言確認申請書式
○遺言檢認申請書式
○戸籍ニ關スル書式

目次

○出生届書式
○出生届書式
○嫡出子否認届書式
○私生子認知届書式
○私生子認知届書式
○私生子認知届書式
○養子緣組届書式
○養子離緣届書式
○婚姻届書式
○入夫婚姻届書式
○離婚届書式
○後見開始届書式
○後見人更迭届書式
○後見人任務終了届書式
○隱居届書式
○失踪届書式
○死亡届書式
○家督相續届書式
○推定家督相續人廢除届書式
○同上書式
○家督相續人指定届書式
○家督相續人指定取消届書式
○入籍届書式
○同上書式
○同上書式
○離籍届書式
○仝上書式
○離籍ニ因ル一家創立届書式
○復籍拒絕届書式
○復籍拒絕ニ因ル一家創立届書式

目次

○廢家ニ因ル一家創立届書式
○廢家届書式
○絕家及ヒ一家創立届書式
○分家届書式
○絕家再興届書式
○氏復舊届書式
○名改稱届書式
○族稱變更届書式
○身分登記變更ノ申請書式
○轉籍届書式
○本籍地變更届書式
○就籍届書式
○除籍届書式
○(入)寄留届書式
○(出)寄留届書式
○(轉)寄留届書式
○登記ニ關スル書式
○土地賣買ニ付登記申請書式
○建物賣買ニ付登記申請書式
○家督相續ニ付登記申請書式
○遺產相續ニ付登記申請書式
○土地所有權ノ保存ニ付登記申請書式
○建物所有權ノ保存ニ付登記申請書式
○土地所有權ノ一部贈與ニ付登記申請書式
○地上權設定ニ付登記申請書式
○永小作權設定ニ付登記申請書式
○地役權設定ニ付登記申請書式

目次

○先取特權保存ニ付登記申請書式
○質權設定ニ付登記申請書式
○抵當權設定ニ付登記申請書式
○賃借權設定ニ付登記申請書式
○土地建物賣買豫約ニ付假登記申請書式
○登記名義人ノ表示ノ變更ニ付登記申請書式
○分筆ニ付登記申請書式
○地上權ノ變更ニ付登記申請書式
○抵當權ノ消滅ニ付登記申請書式
○地上權ヲ目的トスル抵當權設定ニ付登記申請書式
○登記簿謄本下付申請書式
○登記簿抄本下付申請書式
○登記簿又ハ附屬書類閱覽申請書式
○登記濟證カ滅失シタルトキノ人證書式
○第三者ノ承諾書式

權利義務實行法

緒言

一、國ノ法令ハ人々一般ニ之ヲ知ラサル可ラス殊ニ直接權利ト義務トニ關係アル法律諸規則ニ就テノ手續法式ハ其心得肝要ナリトス抑人ノ權利ヲ法律上種々ニ規定シアレトモ實際ニ之ヲ行ハサレハ眼前不利益ヲ見ルノミナラス法律ノ保護ハ其用ナキニ至ル可シ又法律上其義務ヲ怠ルコトアランカ其結果貴重ナル日時ト費用トヲ消失スルニ止マラス相當ノ處罰ヲモ科セラルヽニ至ル國ノ秩序ヲ維持スル必要上當然ノ事ト云フ可シ熟々世ノ有樣ヲ見ルニ法律諸規則ニ關スル手續方式ヲ知ラサルヨリ確然タル權利ヲ有シナカラ進ンテ實行スルノ勇氣ナク已ヲ得サル場合ニ臨ミ他人ニ依賴スルコトアルモ其失費ハ之ヲ償フニ足ラス多クハ泣寢入ニ終リ失權ノ不幸ヲ見ルニ至ル又法律上ノ義務ニ關シ普通文筆アル人士ニシテ代書ニ依ラサレハ用ヲ辨スルコト能ハサルモノ少カラサルカ如シ誠ニ遺憾ノ次第ニシテ其不利不便果シテ幾千ノヤ本書ハ

是等遺憾ノ事ナカラン爲メ現行ノ法律諸規則ニ據リ自己ノ權利ニシテ主張シ得ヘキモノハ他人ニ依頼セス自ラ進ンテ之ヲ實行シ又法律上ノ義務ニ係ル諸般ノ關係等ニ就テモ代書ニ依ラス之ヲ認メテ提出シ得ル樣成ヘク一般ニ渉ルモノニ關シ詳細其手續ト書式トヲ掲載セリ本書則チ題シテ權利義務實行法ト云フ其實行ヲ期スルニアレハナリ

第一編　民事訴訟ニ關スル件

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　出訴手續

一　裁判所ヘ出訴スルニハ訴狀ヲ管轄裁判所（掛リ裁判所ヲ云フ）ノ書記課ヘ差出スヘキモノトス裁判所ハ事件ノ金高物品ノ代價ノ多少ニヨリ區裁判ノ管轄トナリ又地方裁判所ノ管轄トナルナリ折角訴狀ヲ出シテモ掛リカ違ヘハ管轄違ヒナリトテ却下セラルヲ以テ先ツ此裁判管轄ノ事ヲ心得置クハ必要ナリ區裁判所ノ管轄ハ左ノ通リ

イ　百圓以下ノ金高又ハ代價百圓以下ノ代價アル物品ニ關スル訴

ロ　住家其他建物又ハ其一部分ノ受取リ明ケ渡シ使用占據若クハ修繕ニ關シ賃借人ニ對スル訴（價格ニ拘ラス）

ハ　賃借人ノ家具又ハ所持品ヲ差押ヘタルコトニヨリ賃貸主ト賃借人トノ間ニ起リタル訴（價額ニ拘ラス）

ニ　不動產ノ經界ノミニ關スル訴

ホ　占有ノミニ關スル訴

ヘ　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起ル訴

ト　賄料宿料旅人ノ運送料又ハ之レニ伴フ手荷物ノ運送料（旅人ト旅店飲食店ノ主人及ヒ運送人トノ間ニ起ルモノトス）

チ　旅人ヨリ旅店飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ物品（全上）

右ノ外ハ概シテ地方裁判所ノ管轄ナリ（地方裁判所ノ管轄事項ハ頗シケレハ略ス）之ヲ事物ノ管轄ト云フ又相手方ノ住所及ヒ不動產ノ所在地ヲ以テ裁判管轄トス之ヲ土地ノ管轄ト云フ土地ノ管轄ニハ普通裁判籍ト特別裁判籍トアリ普通裁判籍ハ相手方ノ生活スル住所ナリト

ス軍人軍屬カ相手方ナルトキハ兵營地又ハ軍艦ノ定繫所ヲ住所トス
(豫備後備ハ普通ノ人ト看做シ權利義務ノ主體タラシムル法律上ノ擬制ヲ云フ)ハ其所在
地ノ裁判所ノ管轄トス其他之ヲ略ス(民法第二一民事訴訟法第一〇第
一二第一三第一四條ヲ參照セラルヘシ)特別裁判籍ハ永住者ニ係ル財
產權上ノ訴生徒雇人職工等ニシテ永ク定リタル所ニアルモノニ係ル
飲食料宿泊料其他金錢上ノ訴及ヒ契約ニ關スル履行不履行等ニ關ス
ル賠償ノ訴等ニ付キ特別ニ規定セラレタルモノニシテ此等ノ訴ハ相
手方ノ住所ニ拘ラス履行スヘキ地ノ裁判所ニ於テシ不正ノ損害ノ訴
ハ妨害ヲ加ヘタル土地ノ裁判所ニ爲スヲ得ル等ニアリトス尤モ普通
裁判籍ノ裁判所ニ訴フルモ隨意ナリトス又不動產上ニ關スル訴訟及
ヒ地役ニ關スル訴訟ハ其所在地ノ裁判所ノ管轄ニシテ相續裁判籍相
續權遺贈其他遺言ニヨリテ效果ヲ生スル訴ノ如キハ遺產者死亡ノ時
普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ナリトス兎ニ角裁判所ヘ訴フルニハ例ヘ
ハ百圓以上ナルヤ以下ナルヤ此事件ハ區裁判所ニ屬スルヤ地方裁判

所ナルヤヲ定メ而シテ相手方ハ何レニ居住スルヤヲ知リ百圓以上ニ
シテ東京居住ハモノナラハ東京地方裁判所ニ訴ヘ大坂ノモノナラハ
大坂地方裁判所ニ訴フルカ如シ

二 不動產カ數箇ノ裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキハ何レノ裁判所
ニ於テ裁判ヲ受クヘキヤ此場合ニ於テハ關係ノ裁判所ヲ管轄スル直
近上級裁判所(直近上級裁判所ハ區裁判所ニ於ケル地方裁判所地方裁
判所ニ於ケル控訴院ヲ云フ)ニ其指定ニ付テノ申請ヲ爲スヘキモノト
ス其申請ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ヘシ(其申請書式ハ書式第
一號ノ如シ)

三 第一審裁判所(普通最初ノ裁判ヲ云フ)ハ當然管轄權ヲ有セサルモ當
事者(原告被告ヲ云フ)ノ合意ニ因リ管轄權ヲ有スルニ至ルモノナリ例
ヘハ第一審ノ區裁判所ノ訴訟ヲ地方裁判所ニ於テ取扱ヒ又地方裁判
所ノ訴訟ヲ區裁判所ニ於テ爲スカ如シ又甲乙裁判所ヲ換ユルヲ得ル
等ニアリトス右ノ如ク當事者ノ便宜ニヨリ合意ノ上裁判管轄ヲ換ユ
ルコトヲ得レトモ必ス連署ノ上其申立ヲ爲サヽルヿ可ラス(其申立書式

ハ書式第二號ノ如シ」

以上管轄ノ事ヲ心得而シテ訴狀ヲ裁判所ヘ差出ス可キモノトス

四 先ツ地方裁判所ヨリ說カンニ裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理セハ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ相手方ニ其訴狀ナ送達シ相手方ハ裁判所ヨリ訴狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ答辯書ヲ差出スヘキモノトス又訴狀送達ヨリ辯論ノ日即チ呼出期日ハ少クモ二十日間ノ猶豫アルモノナリ期日ニハ双方出頭ノ上辯論アルモノトス辯論終リテ判決言渡トナル辯論ハ其日ニ終ルコトアリ又數日ニ渉ルコトアリ判決アリテ其判決書ノ送達アリテヨリ一ケ月內ニ控訴セサルトキハ第一審裁判ハ確定トナル確定トハ最早動スコト能ハサルヲ云フ確定シタル判決ニヨリテ相手方カ義務ヲ履行スルトキハ強制執行法ニヨリ財產ヲ差押ヘ金錢請求ナラハ金錢ヲ受取リ物ノ引渡請求ナルトキハ其物ヲ受取ル手順ナリ猶以下記スル所ニヨリテ了解セラル可シ

第二節 準備書面ノ意義

五 裁判所ニ於ケル訴訟ノ辨論ハ口頭ヲ以テ爲ス可キモノトス尤モ辯論ノ準備即チ用意ハ書面ヲ以テ爲ス可キモノトス是レ即チ準備書面ノ名アル所以ナリ本來民事訴訟ハ口頭辯論主義ニヨレリ故ニ口頭辯論ノ際主張セントスル事實ハ豫メ其準備ヲ爲スヲ必要トス然ラサレハ速ニ辯論ヲ爲スヲ得サルヲ以テナリ

訴狀モ準備書面ノ一ニシテ其記載ス可キ事實ハ簡明ニ記ス可キモノトス而シテ事實上ノ說明ヲナシ又ハ法律上ノ討論ノ如キハ書面ニ記載スルコトヲ得サルモノトス事實上ノ說明法律ノ討論ノ如キハ辯論上ノ事項ニ屬スルカ故ナリ又地方裁判所ニ訴ヲ爲スニハ必ス訴狀ヲ要スレトモ區裁判所ニ訴フルニハ口頭ニテ爲スコトヲ得ルナリ口頭ニテ訴ヲ爲ストキハ裁判所書記ニ於テ調書ヲ作ルモノトス

〔書狀書式ハ書式第三號乃至第十號ノ如シ〕

六 訴ハ一旦提起スルモ之ヲ取下クルコトヲ得ヘシ若シ口頭辯論後ナルトキハ被告ノ承諾ヲ要シ口頭辯論前ナルトキハ原告ノミニテ取下クルコトヲ得ルモノトス〔取下書式ハ書式第十二號第十三號ノ如シ〕

七 答辯書モ同シク準備書面ノ一ニシテ地方裁判所以上ニ於テハ必ス之ヲ要スレトモ區裁判所ニ於テハ之ヲ差出サヽルモ差支ナシ〔答辯書式ハ書式第十一號ノ如シ〕

八 總テ書面ハ裁判所ノ書記課ヘ差出ス可キモノトス裁判所ニ於テハ相手方ニ送達ス可キモノハ送達シ又辯論期日ヲ定メテ通知ノ手續ヲ爲ス等前節述フル所ノ如シ

第三節 口頭辯論順序

九 前述ルカ如ク裁判所ニ於テ原告ヨリ差出シタル訴狀ヲ被告ニ送達スルト同時ニ辯論期日ノ通知アルヲ以テ其期日ニ至ラハ原告被告共ニ出頭シテ辯論アル可キモノトス而シテ口頭辯論開始順序ハ出頭ノ關係人一同ヲ入廷セシメ裁判官着席裁判長ハ先ツ本件取調フル旨ヲ告クソレヨリ原告及ヒ被告ハ第一着ニ一定ノ申立ヲ爲ス一定ノ申立トハ判決ヲ受クル事項ノ申立ノコトヲ云フナリ例ヘハ原告ナラハ被告ハ原告カ請求スル元利金何圓ヲ速ニ償却スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔タルヘシトノ御判決アランコトヲ願ヒマス云々ト云ヒ又被告ハ

原告ノ申立相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔タルヘシト御判決アランコトヲ求メマス云々ト申立ツルナリ次ニ事實ノ供述即チ事件ニ關スル事實ノ次第ヲ申述スルモノトス事實ノ供述終リテ裁判官ハ證據ノ取調ヲ爲スト告ク此場合ニ於テ辯論ヲ爲スノ順序ナリ辯論ハ事實及ヒ法律ノ區別ニ拘ラス之ヲ爲スコトヲ得ヘシ辯論終レハ本件取調相濟ミタリト告ケラルソレヨリ判決言渡ヤナルナリ判決ハ即日言渡アルカ又ハ何日判決ヲ言渡ス旨ヲ告ケ閉廷トナルモノトス口頭辯論順序ハ以上ノ如シ猶辯論ニ關スル二三ノ事項ヲ左ニ記載ス可シ

一〇 當事者ハ相手方ニ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ス若シ問ヲ發スル必要アラハ裁判長ニ問ヲ發センコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ其問ニ對シテ答ヘス又ハ答ノ判然タラサル場合ハ相手方ノ利益ト爲ル可キ答ヲ爲シタルモノト看做サル可シ是レ當然ノ事ト云フ可シ

一一 判決ヲ受ク可キ事項ノ申立即チ一定ノ申立ハ書面ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス即チ書面ノ通リ申立ツルカ又ハ言葉ニ直シテ申立ツル

モノトス又書面ニ掲ケサル申立アルトキハ調書ニ附錄トシテ添付ス可キ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス是レ果シラ申立アルヤ否ヤ不確實ナルニヨルカ故ナリ又重要ノ點ニ於テ以前申立テタルモノト異ナル申立ニ付テモ右同樣書面ヲ差出シテ其申立ヲ明ニセサル可ラス然ラサレハ何レカ正當ナルヤ不明ナルヲ以テナリ(調書トハ裁判所書記ニ於テ筆記シタル口頭辯論調書ヲ云フ調書ニ附錄トシテ表示シタル書類ハ書記カ筆記シタルモノト同一ノ効アルモノトス若シ本項ノ書面ヲ差出ス場合ハ附錄トシテ調書ニ添付相成リタキ旨書キ添ヘ差出セハ足ルナリ)右手續ヲ盡サヽルトキハ裁判所ハ申立ナキモノト看做ス可シ

一二 口頭辯論ノ際口頭ノ演述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀スルコトハ許サレス只文字上ノ趣旨ヲ要用トスルトキハ其部分ニ限リ之ヲ朗讀スルコトヲ得ヘシ又相手方ノ主張シタル事實ニ對シ論辯スルハ勿論ナレトモ爭ハサル事實ハ一方ノ述フルカ儘ニ認メラル尤モ陳述中ヨリ爭フ丈ノ意思カ見ユルトキハ擬制セラルコトアリ又知ラスト云フノミニテハ申譯トナラス其事柄ヲ行ヒ又ハ實驗シタルコトナキ事實ナラハ格別苟モ關係ノ見ユル事柄ニ付テハ只不知ヲ以テ答フルヲ得サルナリ斯ル陳述ハ却テ不利ノ推測ヲ受クルモノトス

一三 疏明方法ノ事事實上ノ主張ヲ疏明ス可キトキハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシムヘキ證據方法ヲ申出ツルヲ以テ足ルモノトス尤モ即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ノ如キハ疏明ノ方法トシテハ許サレス即チ疏明トハ申開キノコトニシテ即座ニ爲ス可キモノナレハナリ

一四 訴訟記錄ハ訴訟上必要書類ナリ若シ當事者ニ於テ閱覽センコトヲ欲セハ其申立ヲ爲シテ閱覽スルコトヲ得ヘク又裁判所書記ニ其正本抄本及ヒ謄本ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(其申請書式ハ書式第五十三號第五十四號ノ如シ)

第四節 判決ニ關スル件

一五 判決ニハ終局判決ト中間判決ノ三種アリ終局判決トハ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ裁判所ハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲

スニアリ即チ訴訟全部ノ終局裁判ヲ云フ一部判決トハ一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求中ノ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ起シタル場合ニ於テ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ終局判決ヲ爲スニアリ之ヲ一分判決ト云フ中間判決トハ各個獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ爭カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキニ爲ス判決ヲ云フ例ヘハ辯論中防訴ノ抗辯アルトキ其抗辯カ正當ナルヤ否ヲ本案事件ニ拘ラス判決スルヲ云フ

一六 裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムル權ナキモノトス是レ訴ナキニ審理シ請求ナキニ裁判スルコトヲ得サル原則ニヨルカ故ナリ尤モ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲スモノトス然レトモ一分判決ヲ爲ス場合ハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトアルモノトス

一七 判決ハ口頭辯論ノ終結スル日ニ於テ直チニ之ヲ言渡シ又ハ期日ヲ定メテ言渡スコトアリ尤モ口頭辯論終結後七日ヲ過クルコトヲ得サルモノトス

一八 控訴ノ申立又ハ上告ヲ爲スニハ判決ノ送達アリタル日ヨリ起算ス可キモノナレハ必ス判決ノ送達アランコトヲ申立テ其送達ヲ受ケサル可ラス〔其申立書式ハ書式第十四號ノ如シ〕

一九 又判決書中違算書損及ヒ其他之ニ類スル誤謬アルトキハ更正ノ申立ヲ爲スヲ得可シ若シ其申立ヲ却下シタルトキハ上訴ヲ爲スヲ得ス之ニ反シテ更正ノ決定ニ對シテハ即時抗告スルコトヲ得可シ又脫漏アルトキハ直チニ補充ノ申立ヲ爲スコトヲ得可シ若シ直チニ其申立ヲ爲サヽル場合ハ判決正本ノ送達ヨリ七日以内ニ爲ス可キモノトス〔更正及ヒ補充申立書式ハ書式第十五號第十六號ノ如シ〕

第五節　欠席判決ニ關スル件

二〇 被告ハ勿論原告ト雖トモ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ一方ノ申立ニヨリ〔此申立ハ口頭ニテ宣シ〕欠席判決ヲ受クルモノナリ若シ原告出頭セサルトキハ欠席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡サルヽモノトス若シ被告出頭セサルトキハ原告ノ申立ヲ認メタルモノト看做シ敗訴ヲ言渡サルヽナリ然レトモ原告ノ請求カ一体不當ナルトキハ

其却下ヲ言渡サルヽモノトス

第六節　故障申立方法

二一　欠席裁判ヲ受ケタル原告又ハ被告ハ欠席判決ノ送達アリタル日ヨリ十四日内ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得故障ノ申立ハ欠席裁判ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ爲ス可キモノトス其書面ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

第一　故障ヲ申出テラレタル欠席判決ノ表示

第二　其判決ニ對スル故障ノ申立

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキモ亦之ヲ掲ク可キモノトス（其申立書式ハ書式第十六號ノ如シ）

二二　裁判所ニ於テ故障ヲ理由アリトスルトキハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ故障ニ付テノ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ双方ヲ呼出スナリ而シテ故障ヲ正當ナリトスルトキハ欠席前ノ摸樣ニ復スルモノトス

第七節　强制執行ニ付執達吏委任手續

二三　執達吏ニ委任スルニハ執行力アル正本（執行力アル正本ノコトハ强制執行ノ部ニ詳記ス）ヲ交付シテ委任ス可キモノニシテ別ニ書面其他ノ手續ヲ要セス執達吏ハ支拂其他ノ給付ヲ受取リ又競賣方法ヲ以テ差押物ヲ賣却シタル金額及ヒ差押タル金錢ヲ債權者ニ引渡ス可キモノトス其他總テ差押ニ付テノ手續ヲ行ヒ又委任ニヨリ告知催告等ノ手續ヲ爲スモノトス（尚ホ强制執行ノ部ヲ參照ス可シ）

二四　執達吏ハ執達吏手數料規則ニヨリ一定ノ手數料及立替金ヲ委任者ヨリ申受ルモノトス（明治廿三年法律第五十二號執達吏手數料規則）

二五　執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手數料及ヒ立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得ヘシ（仝上）

二六　强制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル異議ハ執行裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スモノトス執行裁判所トハ强制執行ヲ掌ル裁判所ニシテ即チ區裁判所ヲ云フナリ

第八節　期日及ヒ期間ニ關スル件

二七　期日ハ裁判長日及ヒ時ヲ以テ定ムルモノトス例ヘハ何月何日午前何時ト云フテ知ラシムルカ如シ又期日ハ事件ノ呼上ケヲ以テ始マル例ヘハ書記ニ於テ開廷ノ際何々事件ト呼上クルカ如シ又期日ノ終リハ退廷時間カ又ハ其日取調濟ノトキヲ云フ若シ原告被告カ其期間内ニ辯論ヲ爲サヽルトキハ期日ヲ怠リタルモノト看做サレ欠席判決費用賠償等ヲ受クルコトアル可シ

二八　期間ヲ計算スルニ時ナルトキハ即時ヨリ起算シ日ナルトキハ初日ヲ算入セス一日ノ期間ハ二十四時トシ一ケ月ノ期間ハ三十日トシ一ケ年ノ期間ハ平年閏年ニ拘ラス曆ノ一年ニ依ルモノトス期日ノ終リカ日曜日又ハ祝祭日ニ當ルトキハ其日ハ期間ニ算入セサルモノトス

二九　期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行期日ノ指定ハ申立ニヨリ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ爲スコトヲ得可シ尤モ期日ノ變更ハ顯著ナル理由ノ外原告被告ノ合意ヲ要スルモノトス〔期日ノ變更及ヒ期間伸長申請書式ハ書式第十九號第二十號ノ如シ〕

第九節　訴訟上須知要件

第一款　證據ニ關スル件

三〇　繁雜ナル證據調ハ裁判所ニ於テ掛リ判事ヲ定メテ取調フルコトアリ當事者ハ證據調ノ場所ニ立會フコトアルニヨリ裁判所ヨリ期日ヲ定メテ通知スルコトアリ又擧證申立人ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ證據調ノ費用ヲ豫納スルコトアル可キモノトス

三一　人證ノ事　人證ハ證人ノコトナリ若シ證人ノ必要アラハ口頭辯論證據調ノ際證人ヲ指名シ證人ノ訊問ヲ受クヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ裁判所ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ呼出シテ訊問スルヿトアル可キモノトス〔證人訊問申立書式ハ書式第十二號ノ如シ〕

三二　書證ノ事　書證ハ證據トナル可キ書類ナリ多クハ訴狀ニ添ヘアレトモ又證據調ノ際提出スルコトヲ得可シ若シ證據ニ關スル證書カ相手方ノ手ニ存スルトキハ相手方ニ其證書ノ提出ヲ命セラレンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得可シ〔其申立書式ハ書式第廿一號ノ如シ〕

相手方ハ左ノ場合ニ於テ證書提出ノ義務アルモノトス

イ　舉證者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ證書ノ引渡又ハ其提出ヲ求ムルコトヲ得ルトキ例ヘハ民法第二百六十二條ノ如キ場合

ロ　證書カ其旨趣ニヨリテ舉證者及ヒ相手方ニ共通ナルトキ例ヘハ不可分又ハ連帶ノ債權證書又ハ債務證書ノ如シ

ハ　相手方ノ手ニ存スル證書ニシテ其訴訟ニ於テ舉證ノ爲メ引用シタルトキ例ヘハ訴狀又ハ答辯書ニ添付シタル證書ノ如シ

三三　若シ相手方ニ於テ證書ヲ所持スル旨自白シナカラ其證書ヲ差出ス可シトノ命ニ從ハサルトキ、證書ヲ所持セスト申立サル相手方カ其證書ヲ差出サヽルカ又ハ證書ヲ所持セスト申立タル證書ニ付訊問ヲ受ケテ其供述ヲ爲サヽルトキ、故意ニ證書ヲ隱匿シ又ハ使用ニ耐ヘサラシメタルコト明確ナルトキ、以上ノ場合ハ舉證者ノ差出シタル證書ノ謄本ヲ以テ正當ノモノト看做サヽルナリ

三四　若シ證書カ第三者ノ手ニ存スルトキハ之ヲ取寄スル爲メ期間ヲ定メンコトヲ申立ツルコトヲ得ヘシ〔此ノ申立書式ハ書式第十四號ノ如シ〕

三五　第三者ハ相手方ト同一ナル理由ニヨリ證書ヲ提出スル義務アリ然レトモ强テ證書ヲ提出セシムルコトハ訴ヲ以テスルノ外ナキモノトス

三六　若シ證書カ官廳公吏等ノ手ニアルトキハ其送付ヲ囑托セラレンコトヲ申立ツ可キモノトス尤裁判所ノ助力ナクシテ取寄スルコトヲ得ルモノハ此限リニアラス例ヘハ戸籍簿又ハ身分登記簿ノ謄本等ノ如シ

三七　證書檢眞ノ事證書ヲ僞造又ハ變造ナリト主張スルトキハ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲ス可キモノトス此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付中間判決ヲ以テ裁判アルモノトス〔檢眞申立書式ハ書式第廿九號ノ如シ〕

三八　私書證書ノ檢眞ハ總テ證據方法及ヒ手跡若クハ印章ノ對照ニヨリテ爲ス其證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲メニ適當ノ書類アラハ提出ス可キ

モノトス又原告被告カ對照ノ爲メ手記ヲ命セラルヽコトアリ若シ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サス又ハ書樣ヲ變シテ手記シタルトキノ如キハ相手方ノ主張ヲ以テ眞正ナリト看做サルヽコトアル可シ

三九　公正證書ノ僞造又ハ變造ナルコトヲ眞實ニ反シテ主張シタル原告若クハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ責アルトキハ五十圓以下ノ過料ヲ言渡サル又私書證書ナラハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡サルヽモノトス

四〇　檢證ノ事檢證ノ申出ハ檢證物ヲ表示シ及ヒ證ス可キ事實ヲ開示シテ之ヲ爲ス可キナリ裁判所ニ於テ必要ト認ムルトキハ實地ニ臨ミテ取調ヲ爲スコトアリ境界爭等ノ際ニ多ク見ル所トス〔檢證申立書式ハ書式第三十一號ノ如シ〕

四一　鑑定ノ事鑑定ノ申出ハ鑑定スヘキ事項ヲ表示シテ之ヲ爲ス可キモノトス〔鑑定申立書式ハ書式第三十二號ノ如シ〕

第二款　證據保全ニ關スル件

四二　證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルトキハ證據保全ノ爲メ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ是レ紛失逃走旅行疾病死亡等ノ場合ニ於ケル場合ニ於テ必要ナリ若シ切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受クヘキ者ノ現在地又ハ檢證ス可キ事物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ〔其申請書式ハ書式第三十三號ノ如シ〕

第三款　權利拘束ノ意義

四三　權利拘束トハ訴狀ノ送達ヨリ始マリ其事件ニ付テハ他ヨリ動カサレ又動クコトノ出來ヌ連鎖トナルヲ云フ此連鎖ハ原告若クハ被告ヨリ同シ訴訟ニ付他ノ裁判所ニ於テ本訴又ハ反訴ノ請求ヲ起シタルトキハ相手方ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルナリ又一旦訴ノ起リタル以上ハ其後請求物ノ價額カ增減シタリ又住所ノ變更等アルモ裁判管轄ノ變ルコトナシ又原告ハ訴ノ原因ヲ變更スルノ權利ナシ尤モ口頭辯論前ニ被告カ異議ヲ述ヘサルトキハ差支ナシトス然レトモ

原告ハ訴ノ事實又ハ法律上ノ申述ヲ補足シ變更シ及ヒ申立ノ擴張若クハ減縮ヲ爲スコトハ差支ナシ是等ニ付テハ被告ハ異議ヲ述フルコト能ハサルナリ又最初請求シタル物カ滅盡シタリ變更アルトキハ賠償ヲ求ムルコトヲ得可シ又口頭辯論ノ始ルマテハ被告ノ承諾ナクシテ訴ヲ取下クルコトヲ得レトモ其後ハ被告ノ承諾ナクレハ取下ルコトヲ得サルモノトス

四四　權利拘束中ハ被告ハ其裁判所ニ反訴ヲ起スコトヲ得ヘシ若シ財產權上ノ請求ニアラサル反訴ナルトキハ其目的ニ付其裁判所ノ管轄ノ塲合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス反訴ヲ爲スニハ答辯書ニ併記シテ差出スカ又ハ特別ノ書面ヲ以テシ又ハ口頭辯論中相手方ノ面前ニ於テ爲スコトヲ得ルモノトス其差出期限ハ答辯書差出期限ニ同シ即チ訴狀ノ送達アリタルヨリ十四日ノ間ナリトス〔反訴書式ハ書式第三十四號第三十五號ノ如シ〕

第四款　防訴ノ抗辯ニ關スル要件

四五　妨訴ノ抗辯トハ訴ヘラレタル事件ニ對シ口頭辯論前被告ニ於テ應訴ヲ拒ムヲ云フ左ニ揭クル事項ノ場合是レナリ

第一　無訴權ノ抗辯
第二　裁判所管轄違ノ抗辯
第三　權利拘束ノ抗辯
第四　訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯
第五　訴訟費用保證欠缺ノ抗辯
第六　再訴ニ付前訴訟費用未濟ノ抗辯
第七　延期ノ抗辯

第一　無訴權ノ抗辯トハ例ヘハ行政裁判ニ關スルモノニシテ民事ノ裁判ヲ受ク可キモノニ非ラス依テ被告ノ地位ニ立ツ可キモノニアラストノ理由ヲ以テ之ヲ拒ムカ如シ第二裁判所管轄違ノ抗辯トハ東京裁判所ノ管轄ニ非ス住所ハ千葉町ニ付千葉地方裁判所ノ管轄ナリ依テ訴ニ應スルコト能ハスト云フカ如シ第三權利拘束ノ抗辯トハ例ヘハ賣掛代金トシ訴ヘ後ニ貸金トスルカ如シ第四訴訟能力ノ欠缺又ハ代理ノ欠

應スル理由ナシト抗辯スルカ如シ第四訴訟能力ノ欠缺又ハ代理ノ欠

欵ノ抗辯トハ例ヘハ原告ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノナレハ訴訟ヲ起ス資格ナシ依テ訴ニ應スルコト能ハスト云ヒ又ハ代理人タルノ證明ナシ依テ訴訟ヲ起ス權利ナシト云フテ抗辯スルカ如シ第五訴訟費用保證ノ抗辯トハ例ヘハ訴訟費用ノ保證ヲ爲ス可キ筈ナルニ保證ヲ以テセス依テ本訴ニ應スルコト能ハスト云フカ如シ第六再訴ニ付前訴訟費用未濟ノ抗辯トハ例ヘハ原告カ一旦取下ケタル事件ヲ更ニ訴フルトキハ前ノ訴訟費用ヲ支拂フ可キ筈ナルニ支拂ヲ受ケス依テ支拂ハサル間ハ答辯ヲ爲サスト云フカ如シ第七延期ノ抗辯トハ貸借金ニ對スル保證人ハ借用人ニ於テ返濟セサルトキハ本人ニ代ツテ返濟セサル可ラス然レトモ本人ニ對シ先以テ履行ヲ請求スヘシ其レ迄ハ延期ヲ望ムト云フテ訴ヲ拒ムコトヲ得可シ

四六 防訴ノ抗辯ハ本案ノ辯論前提出スヘキモノナレトモ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得サルモノニ係ル第一第二第四ノ專屬管轄ナルトキノ如キ又ハ被告ノ過失ニ非スシテ辯論前ニ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルトキハ辯論ノ始リタル後ト雖トモ之ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノトス

第五款　訴訟參加ノ件

四七 參加トハ他人ノ間ニ起リタル訴訟ニ關係アルヨリ之ニ加ハルヲ云フモノニシテ四種アリ左ノ如シ

第一　主參加
第二　從參加
第三　告知參加
第四　指示參加

是レナリ主參加トハ甲乙兩人ノ間ニ或ル物品ノ引渡ノ訴訟起リタルニ丙ナル者甲乙ノ訴訟物品ハ自分ノ所有物ニ付自分ニ引渡サレタシト訴フルカ如キ又ハ甲カ丙ヨリ金員ヲ借用シアルヲ以テ爲メニ財產ノ差押ヲ恐レ乙ト共謀シ虛僞ノ貸借ヲ作リ訴ヲ起シ乙ニ財產ヲ引渡シ丙者ヲ害セント謀ルトキノ如キ塲合ハ共ニ甲乙ヲ被告トシ債權ヲ害スルモノナリトシ其請求ヲ主張スルコトヲ得ヘシ〔主參加申請書式ハ書式第三十六號ノ如シ〕

右ノ請求ハ甲乙ノ訴訟カ上訴中ト雖トモ第一審裁判所ニ爲スモノトス又主參加人ハ書面又ハ口頭ニテ第一審ト上級審トニ拘ラス其訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ中止ノ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス〔本訴中止申立書式ハ書式第三十八號ノ如シ〕

四八　從參加トハ他人ノ間ニ訴訟起リ若シ一方ノ勝敗ニヨリテハ自己ニ利害ヲ來スコトアル場合ニ於テ爲スモノニシテ其訴訟中ハ何時ナリトモ其一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ加ハルコトヲ得ルモノトス〔民事訴訟法第五三條〕

四九　從參加人ハ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ加ハルモノナルカ故ニ一方カ用サントスル攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ又總テ訴訟ニ關スル事柄ヲ充分ニ行ヒ得ヘク上訴ニ至ルマテ其權利ヲ有スルモノトス〔民事訴訟法第五四條〕從參加ノ申請ハ本訴訟ノ繫屬スル裁判所即チ訴訟ノ起リツトアル裁判所ニ爲スモノニシテ其申請ニハ當事者及ヒ訴訟ヲ表示シ又一定ノ利害關係及ヒ附隨セントスル陳述ヲ開示ス可キモノトス〔從參加申請書式ハ書式第三十三號ノ如シ〕

五〇　從參加人ハ當事者双方ノ承諾ヲ得テ其附隨スル原告被告ニ代リ訴訟ヲ擔任スルコトヲ得此場合ハ原告若クハ被告ヨリ判決ヲ以テ訴訟ヨリ其原告若クハ被告ヲ脫退セシムルモノトス〔民事訴訟法第五八條〕〔脫退申立書式ハ書式第三十九號ノ如シ〕

五一　告知參加トハ訴訟中何レカ一方敗訴スルトキハ第三者即チ原告被告以外ノ者ニ對シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘク又反對ニ請求セラルヽカ如キコトアル場合ニ念ノ爲メ第三者ニ其訴訟ノ起リ居ルコトヲ告知シ其用意ヲ爲サシムルニアリ其告知ハ裁判所ノ手ヲ經テ爲スヘキモノニ付其告知ノ理由訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ差出ス可キモノトス告知ヲ受ケタルモノハ其訴訟ニ參加スルハ自由ニシテ參加ニ付テハ從參加ノ手續ニ從フモノトス〔民事訴訟法第五九條第六〇條第六一條〕〔訴訟告知書式ハ書式第四十五號ノ如シ〕

五二　指名參加トハ例ヘハ他人ヨリ物品ヲ預リタルニ其物品ノ占有者トシテ訴ハラレ被告トナリタル者ヨリ訴訟ノ辯論前ニ其預ケ主ヲ指名シ之ニ陳述ヲ爲サシムル爲メ其呼出ヲ請求シ其出頭陳述スルマテ

辯論ヲ拒ムコトヲ得ルカ如キ場合ヲ云フ右ノ場合ニ於テ出頭シタル預ケ主カ預リ主ト爭ヒアルトキ又ハ預ケ主ニ於テ陳述ヲ爲サヽルトキハ預リ主ハ訴人ノ申立通リニ爲スヲ得可シ又預ケ主カ預リ主ノ主張ヲ正當ナリトスルトキハ預リ主ノ承諾ヲ得テ之ニ代リ訴訟ヲ引受クルコトヲ得此場合ハ申立ニヨリ被告人タル預リ主ヲ訴訟ヨリ脫退セシムルモノトス

第六款　除斥及ヒ忌避ニ關スル件

五三　裁判所判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニヨリ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽモノトス即チ事件ニ關係スルコトヲ得サルモノナリ

イ　判事又ハ其婦カ原告若クハ被告タルトキ又ハ訴訟ニ係ル請求ニ付當事者ノ一方若クハ双方ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

ロ　判事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ双方又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖トモ亦同シ

ハ　判事カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人トナリテ訊問ヲ受クルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受クルトキ若クハ受ケタルトキ又ハ法律上代理人ト爲ル權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

ニ　判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受托判事トシテ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽコトナシ

右列記シタル事情アルトキハ裁判ニ關係スルコト能ハサルナリ是レ偏頗ノ裁判ヲ下スハ情ニ於テ制ス可ラサルノミナラス例令公平ナル裁判ヲ下スモ他ノ感情ヲ害スルノ恐レナシトセス故ニ法律上除斥セシムル所以ナリ右除斥ノ理由アルカ又ハ偏頗ノ恐アル場合ハ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルヲ得ルモノトス

五四　偏頗ノ忌避ハ一般ノ場合ニ於テ判事カ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ尤モ原告若クハ被告ニ於テ其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ其判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ忌避スルコトヲ得サルモノトス

五五　忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス〔忌避申請書式ハ書式第四十二號ノ如シ〕

五六　忌避ノ原因ハ之ヲ疎明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疎明ノ用ニ充ッルコトヲ得ヘシ若シ忌避ノ申請ヲ不當ナリトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

五七　判事ノ忌避事項ハ裁判所書記ニ付テモ同シトス

第七款　訴訟能力者ニ關スル件

五八　訴訟ヲ爲ス能力ハ成年以上ノモノニシテ自ラ當事者タルヘキモノナリ然レトモ訴訟代理人ヲシテ訴訟ヲ爲サシムルコトアリ又法律上ノ代理人ニ依ラサルヲ得サル無能力者アリ或ハ同意又ハ許可ヲ得テ訴訟ヲ爲スヲ得ヘキモノアリ民法示ス所左ノ如シ

イ　禁治産者ノ訴訟ハ其後見人ニ於テ爲ス

ロ　準禁治産者ノ訴訟ハ保佐人ノ同意ヲ要ス

ハ　妻ノ訴訟ハ夫ノ許可ヲ要ス

ニ　法定ノ訴訟ハ其理事之ヲ爲ス

ホ　法人ノ清算事務ニ付テハ其清算人ヨリス

ヘ　未成年者ノ訴訟ハ親權ヲ行フ父若クハ母之ヲ爲ス

ト　遺言ニ付テハ遺言執行者之ヲ行フ

五九　訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人ナキトキハ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ヘ特別代理人ノ選任ヲ申請ス可キモノトス此申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得可シ〔特別代理人選任申請書式ハ書式第四十三號ノ如シ〕

六〇　聯合區町村會ノ管理者ハ同法第四條ニ準據シ區長戸長カ其區町村會ノ評決ヲ施行スルニ當リ聯合町村會ノ會議ノ評決ヲ施行スル職務ヲ有スル而シテ其評決ノ必要ニ從ヒ聯合區町村會ナル集合名義ノ下ニ於テ他人ト契約スルコトヲ得ヘク隨テ右ノ契約ニ起因スル紛爭其他目的ノ事件ノ關係ヨリ生スル諸般ノ爭訟ニ付テモ亦右集合ノ名稱ノ下ニテ裁判上ノ原告又ハ被告トナルコトヲ得可シ〔三十年二月四日大審院判決〕

六一　講會ハ訴訟上其役員ニ依リ代表セラルヘキモノナレハ講會ノ役員ニアラサルモノハ其債權ニ付起訴スルノ權ナキモノトス（三十年十一月二日同上）

六二　幼者ニ自然ノ後見人アル上ハ之ヲ擯キ親族等ヨリ訴訟ヲ提起スル權能ナキモノトス（三十年十二月十六日同上）

六三　原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲サヽルトキハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシテ之ヲ爲スヘキモノトス若シ辯護士ノ在ラサル場合ニ於テハ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人トナシ若シ此等ノ者在ラサルトキハ他ノ訴訟能力者ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得ヘシ

六四　區裁判所ニ於テハ辯護士ノ在ルトキト雖トモ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得ルモノトス

六五　訴訟委任ハ書面ヲ以テ其委任ヲ證明スヘキモノトス（委任狀書式ハ書式第四十四號ノ如シ）

六六　原告被告ハ口頭辯論ニ於テ權利ヲ伸張シ又ハ防禦スル爲メ辯護士ヲ補佐人ト爲シ又ハ何時ニテモ裁判所ノ取消シ得ヘキ許可ヲ得テ他ノ訴訟能力者ヲ補佐人ト爲シテ共ニ出頭セシムルコトヲ得ルモノトス

六七　補佐人ノ演述ニシテ相違ノ廉アルモノハ原告若クハ被告ニ於テ即時ニ取消スカ又ハ更正セサルトキハ原告若クハ被告ニ於テ自ラ演述シタルモノト看做サヽルモノトス

第八款　保證ニ關スル件

六八　保證ハ外國人カ原告トナリ又ハ原告ノ從參加人トナルトキハ被告ノ求ニヨリ訴訟費用ニ付保證ヲ立ツヘキモノトス尤モ國際條約又ハ外國人ノ本國ノ法律ハ本邦人ニ同一ノ場合ニ保證ヲ立ツル義務ナキトキハ保證ヲ立ツル義務ヲ生セス又外國人ニシテ反訴ノ場合證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ場合公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合モ同シク保證ヲ立ツルニ及ハサルモノトス

六九　保證ハ訴訟行爲ニ因リ損害ヲ償フカ爲メニ立テシムルモノニシテ常ニ原告タル外國人ヲシテ之ヲ立テシムルモノナリ其保證ハ當事

者ノ合意ヲ以テ定ムルノ外裁判所ノ意見ヲ以テ擔保ニ十分ナリト認ムル現金又ハ有價證券ヲ供托シテ之ヲ爲スモノトス若シ裁判所ノ定ムル期間内ニ保證ヲ立テサルトキハ被告ノ申立ニヨリ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言セラルヽモノトス

第九款　訴訟上ノ救助ニ關スル件

七〇　何人ヲ問ハス自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非レハ訴訟提起ヲ出スコト能ハサル者ハ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ルナリ尤モ其目的トスル事件ノ輕忽ナラサルモノ又ハ見込ナキニ非スト見ユルモノニ限ラルヽナリ訴訟上救助ノ申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ差出スヘキモノトス故ニ第一審裁判所ノ判決ヲ受ケタル後ニ控訴ヲ爲ストキハ第二審裁判所ニモ矢張申請ヲ爲サヽルヽ可ラス

七一　救助ノ申請ハ口頭又ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ原告若クハ被告ハ申請ノ提出ト共ニ管轄市町村長ヨリ發シタル證書ヲ差出スコトヲ要スルナリ其證書ニハ原告若クハ被告ノ身分職業財產並ニ家族

ノ實況及ヒ其納ムヘキ直稅ノ額ヲ開示シテ訴訟費用支拂ノ無資力ヲ證スヘキモノトス（救助申請書式ハ書式第四十五號ノ如シ）

七二　救助ハ第一審第二審共別箇ニ付與セラルヽナリ第一審ニ於テハ强制執行ニ付テノ費用ヲモ付與セラルヽモノトス然レトモ訴訟上ノ救助ヲ受クルモ相手方ニ辨濟スヘキ義務ハ免レサルモノトス只一時印紙ヲ免セラレ保證義務ヲ免カレ執達吏ノ手數料ヲ拂ハサルニ止マルヘシ

第十款　懈怠ノ結果原狀回復ニ關スル件

七三　訴訟行爲ヲ懈怠リタル原告若クハ被告ハ其訴訟行爲ヲ爲ス權利ヲ失フモノトス然レトモ天災其他避ク可ラサル事變ノ爲メニ出頭スルコト能ハサルトキハ申立ニヨリ原狀回復ヲ得ラルヘシ即チ失權以前ノ程度ニ復セラルヽモノトス又欠席判決ヲ受ケタル場合ニ於テ故障期間ヲ經過シタルトキニアリテモ實際其送達ヲ知ラサル場合ハ亦原狀回復ヲ許スモノトス

七四　原狀回復ハ障害ノ止ミタル日又ハ判決ノ送達ヲ知リタル日ヨリ

十四日ノ期間内ニ申立ツルコトヲ得然レトモ如何ナル理由アリトモ不變期間(控訴上告期間ノ一ケ月[但判決書ノ送達アリタル日ヨリ起算ス]等ヲ云フ)ヨリ起算シテ一年ノ後ハ其申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

七五　原狀回復ハ原狀回復ノ原因タル事實原狀回復ノ疏明方法解怠シタル訴訟行爲ノ追完ヲ書面ニ記載シテ申立ツ可キモノトス[原狀回復申立書式ハ書式第四十六號ノ如シ]

第十一款　訴訟費用ニ關スル件

七六　敗訴ノ原告若クハ被告ハ訴訟ノ費用ヲ負擔シ又訴訟ニ因リ生シタル費用ヲ相手方ニ辨濟ス可キモノトス尤モ其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ必要ト認ムルモノニ限ルモノトス又訴訟中訴ヲ取下ケ請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ承諾スル原告若クハ被告ハ敗訴者ニ同シトス

七七　訴訟ノ一部勝訴トナリ一部敗訴トナルトキハ其費用ハ相消シ又割合ヲ以テ分擔ス可キモノトス

七八　被告ニ於テ直チニ請求ヲ承諾シ又被告ノ作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴トナルモ原告ノ負擔トス期日ヲ怠リ期間ノ延長ヲナシ其他訴訟ノ遲延ヲ來シタルトキハ勝訴者トナリタルニ拘ラス爲メニ生シタル費用ヲ負擔ス可キモノトス又裁判所ハ無益ナル攻撃又ハ防禦(證據方法ヲ包含ス)ヲ主張シタル原告又ハ被告ニ勝訴者トナルモ費用ヲ負擔セシムルヲ得ヘシ無益ナル上訴ノ費用ハ之ヲ爲シタル者ノ負擔ニ歸ス又上訴ノ以前ニ提出スルコトヲ得ヘカリシ攻撃若クハ防禦方法ヲ上訴審ニ提出シ爲メニ勝訴者ト爲ルトキハ上訴費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔スルコトアルモノトス和解ハ費用相消タルヘキモノトス

七九　辨濟スヘキ費用額ノ確定ハ申請ニ因リ最初ノ裁判所ニ於テ決定ヲ以テ爲ス可キモノトス申請ニハ費用計算書相手方ニ附與ス可キ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添付スヘキモノトス[訴訟費用額確定決定申請書式ハ書式第四十七號ノ如シ]

八〇　訴訟費用トナルヘキモノハ左ノ如シ[明治二十三年法律第六十四

號民事訴訟費用法）

一　訴狀其他總テ書類ノ書記料半枚十二行二十字詰金貳錢五厘其半枚ニ滿サルモ同シ

一圖面一葉金拾錢但別ニ測量セシ費用ハ裁判所ニテ定ム

一謄譯料半枚十二行二十字詰金五拾錢其半枚ニ滿サルモ同シ

一印紙代印紙法ニ依リテ額ヲ定ム

一執達吏ノ手數料及ヒ立替金執達吏規則ニ依ル

一郵便電信運送等其實費

一公告料各新聞紙又ハ官報ノ定價

一日當一度ニ付金五拾錢但滯在費ヲ給スルトキハ日當二十五錢

一證人ノ日當一度ニ付金五拾錢但滯在費ヲ給スルトキハ日當ヲ給セス

一鑑定人及ヒ通事ノ日當一度ニ付金五拾錢乃至五圓ノ內裁判所之ヲ定ム

一滯在費八里以外ノ地ヨリ來ルトキニシテ一日金貳拾五錢證人鑑定人通事ニ付テハ一日金五十錢

一旅費海陸滿一里ニ付金十錢

一臨檢旅費日當滯在費證人ニ同シ

以上ノ外ノ費用ハ其實費ニ依ル

第二章　區裁判所ノ訴訟手續

第一節　出訴手續

八一　區裁判所ノ訴訟手續ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ爲スコトヲ得訴狀ハ書記ヨリ被告ニ送達スルモ答辯書ハ其差出スト否トハ被告ノ隨意ナリ口頭辯論ノ期日ハ訴狀ヲ被告ニ送達シタル日ヨリ少クモ三日ノ猶豫アルモノトス尤モ急迫ノ場合ハ此期日ヲ二十四時間ニ短縮スルコトヲ得ルナリ若シ期日短縮ノ必要アル場合ハ書面又ハ口頭ニテ其申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ〔口頭辯論期日短縮申立書式ハ書式第四十八號ノ如シ〕

八二　又當事者双方相談ノ上期日ヲ定メス通常ノ裁判日ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付裁判ヲ受ケ辯論ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ訴ノ提起

ハ口頭ノ演述ヲ以テ爲ス可キモノトス

第二節　和解方法

八三　訴ヲ起ス以前ニ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ呼出スコトヲ區裁判所ニ申立ツルコトヲ得ヘシ是レ雙方爭ハスシテ圓滿ニ局ヲ結フヲ得ルヲ以テナリ其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ルモノトス〔和解ノ爲メ呼出申立書式ハ書式第四十九號ノ如シ〕

八四　双方出頭シテ說諭ニ服シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシムルモノトス是レ後日ニ至リ義務ヲ履行セサルトキ强制執行ヲ爲ス材料ト爲スカ爲メナリ若シ和解ノ調ハサルトキハ當事者双方ノ申立ニヨリ其事件訴訟トナリ直チニ辯論ヲ爲スヲ得ヘシ此場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ爲ス可キモノトス

第三節　督促手續

八五　一定ノ金額ノ支拂例ヘハ貸金ノ如キ賣掛代金ノ如シ其他ノ代替物〔同品ヲ以テ替ユルコトヲ得ル物品ヲ云フ米穀酒醬油油等ノ如シ〕若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付〔例ヘハ爲替手形約束手形ノ定リタ

ルモノ、如シ〕ヲ目的トスル請求ニ付債權者ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラス督促手續ニ依リ條件付ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申立ツルコトヲ得ルナリ是レ簡易ニ局ヲ結フノ便宜ニ出テタルモノニシテ區裁判所ニ於テ管轄權ヲ有シ事物ノ管轄如何ヲ問ハス〔即チ百圓以上以下又價格ノ如何ニ拘ラス〕普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ於テ取扱フモノトス

八六　支拂命令ヲ發スル申請ハ第一當事者及ヒ裁判ノ表示第二請求ノ一定ノ數額目的物及ヒ原因ノ表示第三支拂命令ヲ發センコトノ申立以上三箇ノ條件ヲ具備シタル書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ〔支拂命令申立書式ハ書式第五十五號ノ如シ〕

八七　支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ〔取調ヲ爲サスシテ〕發スルモノトス是レ簡便ヲ主トシ且事實モ明カナルヲ以テナリ又權利拘束ノ效力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル支拂命令ノ送達アリタルトキハ裁判所ヨリ債權者ニ通知アルモノトス

八八　債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲ス

ヨトヲ得ルナリ〔異議申立書式ハ書式第五十一號ノ如シ〕

八九　債務者カ請求ノ全部又ハ一部ニ對シ適當ノ期間（期間ハ支拂命令中ニ記載アルモノトス）ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ效力ヲ失フモノトス然レトモ權利拘束ノ效力ハ存スルモノトス是レ引續キ本訴ヲ爲スハ當然ナルカ故ナリ又數個ノ請求中其一部ニ對シ異議ノ申立ヲアルトキハ支拂命令ハ異議ナキモノ及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付猶效力ヲ有スルモノトス

九〇　支拂命令ニ對シ期間內ニ異議ヲ申立タル場合ニ於テ其訴カ區裁判所ノ管轄ナルトキハ其本訴ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ起シタルモノト看做シ其口頭辯論期日ヲ定メラルヽモノトス若シ地方裁判所ノ管轄ナラハ異議アリタルコトヲ裁判所ヨリ債權者ニ通知アルヲ以テ債權者ハ其通知ノ送達アリタル日ヨリ一ケ月內ニ管轄裁判所ヘ訴フルモノトス若シ其期間內ニ訴ヲ起サヽルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失フモノトス

九一　支拂命令ニシテ其命令ニ揭ケタル期間ヲ經過シタルトキハ債權者ノ申請ニヨリ之ヲ假執行シ得ヘキコトヲ宣言セラルヽモノトス債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ右執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル欠席判決ト同一ナルヲ以テ其執行命令ニ對シテハ欠席判決ト同シク執行命令アリタル日ヨリ十四日內ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ若シ其期間ヲ經過セハ確定シテ動スコト能ハサルモノトナルナリ〔假執行宣言申立書ハ書式第五十二號ノ如シ〕

〔區裁判所訴訟手續ハ右便宜法ノ外地方裁判所ノ訴訟手續ニ依ルモノトス〕

第三章　上訴手續

第一節　控訴ニ關スル件

九二　控訴ハ區裁判所ノ判決ニ對シテハ地方裁判所ニ控訴シ地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴院ニ控訴スヘキモノトス（第一審トハ普通最初ノ裁判ニシテ第二審トハ控訴ノ裁判ヲ云フ）控訴期間ハ判決ノ送達アリタルヨリ一ケ月トス此判決ノ送達ハ申立ニヨリ裁判所ヨリ送達

アルモノトス

九三　控訴ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ爲ス可キモノトス〔控訴狀書式ハ書式第五十五號ノ如シ又控訴ハ口頭辯論前ハ被控訴人ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得ヘシ〔取下書式ハ書式第九十九號ノ例ニ同シ〕

九四　被控訴人ハ控訴期間經過後ト雖トモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得附帶控訴トハ相手方ヨリ控訴アリタル後其控訴ヲ幸ニ自己ヨリモ裁判不服ノ點ヲ控訴スルヲ云フ若シ相手方ノ控訴カ棄却トナルカ又ハ取下ヲ爲シタルトキハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フモノトス尤モ控訴期間內ニ起シタル附帶控訴ナルトキハ獨立ノ控訴ト看做シ有效ノモノタルヘキナリ

九五　控訴ハ事實覆審ノ裁判ニシテ地方裁判所ニ於ケルト同樣ノ手續ニテ裁判アル可キモノトス故ニ以上ノ外地方裁判所ノ訴訟手續ニ同シ

第二節　上告ニ關スル件

九六　上告ハ地方裁判所ノ第二審裁判ニ對シ不服アルトキハ控訴院ニ上告シ控訴院ノ第二審裁判ニ對シ不服アルトキハ大審院ニ上告スルモノニシテ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ又法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトシ上告スルコトヲ得ヘシ

九七　裁判ハ左ノ事實アルトキハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

イ　規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

ロ　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限リニ非ラス

ハ　判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ラス裁判ニ參與シタルトキ

ニ　裁判所カ其管轄又ハ管轄ヲ不當ニ認メタルトキ

ホ　訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

ヘ　訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シ口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ

ト　裁判ニ理由ヲ付セサルトキ

九八　上告期間ハ一ケ月トス此期間ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ起算スルモノトス

九九　上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ヘ差出シテ爲スヘキモノトス

〔上告狀書式ハ書式第五十七號ノ如シ〕

一〇〇　右ノ外上告ニ付テハ控訴裁判ニ於ケル訴訟手續ニ同シ

第三節　抗告ニ關スル件

一〇一　抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對シテ不服アルトキ爲スモノナリ又抗告ヲ爲スヲ得ル旨ヲ揭ケアル場合ニ爲スヲ得ヘキナリ

一〇二　抗告ハ直近ノ上級裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲スモノトス直近上級裁判所トハ區裁判所ニ於ケル地方裁判所地方裁判所ニ於ケル控訴院控訴院ニ於ケル大審院ナリ

一〇三　抗告ハ不服ノ裁判ヲナシタル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ爲スモノトス〔抗告狀書式ハ書式第五十九號ノ如シ〕

一〇四　不服アル裁判ヲ爲シタル裁判所ハ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ三日內ニ抗告ヲ抗告裁判所ヘ送付スルモノトス

一〇五　抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出スコトアリ又抗告人ト利害ノ關係アルモノニ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトアルヘシ抗告ヲ理由アリトスルトキハ抗告裁判所ニ於テ裁判アルカ又ハ元裁判ニ委任シテ裁判セシムルコトアルモノトス

一〇六　即時抗告スルコトヲ得ル旨揭ケアル場合ハ判決ノ送達ヨリ七日以內ニ爲スヘキモノトス

第四節　再審ニ關スル件

一〇七　確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニヨリ之ヲ再審セラルヽニヨリ若シ當事者双方ヨリ取消ノ訴ト原狀回復ノ訴ノ兩訴起ルトキハ取消ノ裁判ヲ先ニスルモノトス

一〇八　左ノ場合ハ取消ノ訴ニヨリ再審ヲ求ムルコトヲ得

イ　規定ニ從ヒ裁判所ヲ構成セサリシトキ

ロ　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニアラス

ハ　判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ラス裁判ニ參與シタルトキ

ニ　訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

[イ]及ヒ[ハ]ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス

一〇九　左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニヨリ再審ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

イ　刑法ニ揭ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ

ロ　原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其配偶者ニ關シテ爲シタルトキ

ハ　判決ノ憑據ト爲リタル證書カ僞造又ハ變造ナリシトキ

ニ　證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通譯ニ因リ僞證ノ罪ヲ犯シタル通譯ニ因リ僞證ノ罪ヲ犯シタルトキ

ホ　判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定トナリタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ

ヘ　原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト抵觸スルトキ

ト　相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ

[イ]乃至[ヘ]ノ場合ニ於テ鬪セラルヘキ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタ

ルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サリシトキニ限リ再審ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

一一〇 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限リ之ヲ爲スヲ得ルモノトス

一一一 再審ノ訴ハ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ一ケ月內ニ其裁判ヲ爲シタル裁判所ニ爲スコトヲ得ヘシ尤モ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヨリ一ケ月內ニ爲スヘキモノナリ但取消ノ訴ニ拘ルトキハ判決ノ送達アリタル日ヨリ一ケ月內ニ爲スヘキモノトス〔再審訴狀書式第六十號ノ如シ〕

一一二 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ヲ遵守シタル事實ヲ明白ニ疏明スヘキモノトス而シテ此陳述ハ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ラサルモノトス是レ裁判所ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス可キヤ否ヲ定メサル可ラサルカ故ナリトス

一一三 第三者ハ原告及被告カ共謀シテ債權ヲ詐害スル目的ヲ以テ判

決ヲ得タル場合ハ原狀回復ニ因レル再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

第四章　證書訴訟及ヒ爲替訴訟手續

一一四 證書及ヒ爲替ニ依ル訴訟ハ其證明方法單純ニシテ其審判モ迅速ニ完結スルヲ得ルカ故ニ特別ノ手續ヲ設ケラレタリ

一一五 證書訴訟ハ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニヨリ證スルコトヲ得ルトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケ且證書ノ原本又ハ謄本ヲ添ルコトヲ要ス(訴狀ハ普通ノモノト同シ只證書訴訟タルヲ示スニアリ)

一一六 本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ヲ許サス是レ事實明白ニシテ證明方法單純ナルヲ以テ迅速ニ完結スヘキモノナルカ故ナリ然レトモ或ハ復雜ナラサル爲メ又ハ妨訴ノ抗辯ニテ落着スヘキ見込アルモノハ申立ニヨリ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ抗辯ニ付特ニ辯論ノ分離ヲ命スル

コトアルモノトス又反訴ハ之ヲ許サス是亦本訴ノ旨趣ヲ貫徹セシメンカ爲メナリ

一一七　證書訴訟ハ證書ヲ以テノミ證明方法ト爲サシムルモノナルカ故ニ被告ニ於テ證書ノミノ證明ヲ以テ反對ノ證據方法ト爲サヽル可ラス

一一八　書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得レトモ是レハ即時ニ證明ス可キモノニシテ彼ノ取寄等ノ爲メ期間ヲ延期スルカ如キハ許サレス

一一九　原告ハ口頭ノ辯論ノ終結ニ至ルマテ被告ノ承諾ナクシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ起シ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得ヘシ

一二〇　證書訴訟ニ付テハ證書ノミヲ以テ證據方法ト爲スコトニ限ラレタルヲ以テ其主張ヲ爭ヒタル被告カ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ保留セラル可シ被告ノ權利行使ヲ保留シタルトキハ訴訟ハ通常ノ手續ニ於テ裁判シ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ費用

ハ全部又ハ一部ノ辨濟ヲ言渡サヽルモノトス

一二一　商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス

一二二　數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ各被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ訴ヲ起ス可キモノトス

一二三　訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルモノトス

一二四　以上證書訴訟爲替訴訟共訴ノ許ス可キモノナルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メラルヽモノトス其期日ハ訴狀ノ送達ヨリ少クトモ二十四時ノ猶豫アルモノトス

第五章　强制執行ニ關スル件

第一節　强制執行ニ關スル總則

一二五　强制執行ハ確定ノ終局ノ判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リ之ヲ爲スモノトス確定判決ノ證明書ヲ求ムルトキハ第

一審裁判所ノ書記ニ於テ付與スルモノトス其訴訟カ上級審ニアルトキハ上級裁判所ノ書記カ其確定證明書ノ代リニ未タ上訴ノ提起ナシトノ證明ヲ以テスルモ可ナリ此證明書ハ保證金ノ下附證據書類ノ廢棄又登記ヲ爲スニ付テ必要アルモノトス

一二六 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ノ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止スル可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル强制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトアルヘシ保證ヲ立テシメスシテ爲ス强制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許スモノトス右ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得可シ

一二七 裁判所ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ハ

イ 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

ロ 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

ハ 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付言渡シタル第二又ハ其後ノ欠席判決

ニ 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

ホ 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三ケ月間ノ爲メニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル若シ其宣告ナキトキハ判決ノ補充申立ヲ爲ス可キモノトス

一二八 申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ハ

イ 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

ロ 占有ノミニ係ル訴訟

ハ 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一ケ年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

ニ 左ニ揭ケタル事項ニ付旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

一 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

一旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

ホ　此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ二十圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

一二九　左ノ場合ハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ爲スモノトス

イ　債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ

ロ　債權者カ判決ノ確定トナルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受クヘキコトヲ疏明スルトキ

然レトモ前二項ノ場合ト雖トモ債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ假リニ執行スヘカラサル宣言アルカ又ハ假執行ノ申立ヲ却下セラルル可シ

一三〇　總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債權者ノ申立ニヨリ債權者豫メ保

證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトアルヘク又債務者カカク申出ツルトキハ債務者ノ申立ニヨリ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供托ヲ爲サシメテ其執行ヲ免ルヽコトヲ許ス可キモノトス

一三一　假執行ニ關スル申立ハ其判決ニ接着スル口頭辯論前ニ爲ス可キモノトス

一三二　強制執行ハ執行文ヲ付シタル正本ニ基キ之ヲ爲スモノトス執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

一三三　執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス〔其書式ハ書式第六十一號ノ如シ〕執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記セラルル其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押スモノトス又執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルト

キニ限リ付與セラルヽモノトス

一三四　執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所ノ書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス裁判長ハ其裁判前假處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ又殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得ヘキモノトス

一三五　債權者ハ執行ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツヘキモノトス

一三六　執達吏ニ委任スルニハ執行力アル正本ヲ交付シテ爲スヘキモノトス執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルヘカラス雖トモ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付有效ニ受取ノ證書ヲ作リ之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債者ニ交付スルコトヲ得ヘキモノトス若シ強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁

判所之ヲ裁判ス(前出)其裁判前假處分ヲナシ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止シ或ハ續行スルコトヲ命スルコトアルモノトス執行裁判所ハ區裁判所ヲ云フ

一三七　判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議例ヘハ執行ヲ受クヘキ事件ハ已ニ辨濟シタリト云フカ如シ此場合ハ第一審ノ裁判所ニ訴訟ヲ起ス可キモノトス此異議ハ口頭辯論ノ終結後ニ其原因判明シタルトキニシテ故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトノ時期ナカリシトキニ限リテ許サルヽモノトス

一三八　第三者カ強制執行ノ目的物ニ付所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及債務者ニ對シテ之ヲ主張スヘシ右債權者及債務者ニ對シテ訴ヲ起ストキハ之ヲ共同被告トシ執行裁判所即チ區裁判所ニ起スヘキモノトス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ裁判スヘキモノトス

一三九　強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔トシ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ取立ツヘキモノトス

一四〇　強制執行ハ確定又ハ假執行宣言アル終局判決ノ外左ノ諸件ニ付テモ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

イ　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

ロ　執行命令

ハ　訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

ニ　區裁判所ニ於テ爲シタル和解

ホ　公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付作リタル證書ニシテ直チニ强制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第二節　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行

第一款　動產ニ對スル强制執行

第一項　動產ニ對スル强制執行通則

一四一　動產ニ對スル强制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲スモノトス然レトモ差押ハ債權者ノ請求ヲ辨濟スル爲メ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フ爲メナルヲ以テ差押物ヲ競賣シ其費用ヲ償フ見込ナキトキハ何ノ效ナキヲ以テ强制執行ヲ爲スコトヲ許サヽルモノトス

一四二　第三者カ差押ヲ受クヘキ物ニ付物上ノ擔保權即チ留置權抵當權ヲ有スル場合ニ立テモ差押ヲ妨クルコトヲ得サルモノトス然レトモ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ依リ訴ヲ以テ賣得金ニ付優先辨濟ヲ請求スル權利ヲ失ハサルモノトス

第二項　有體動產ニ對スル强制執行

一四三　債務者ノ占有中ニ在ル有體動產ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス債務者ノ占有トハ其自己ノ所有物タルト又ハ所持セル物トヲ問ハス現在セルモノ總テヲ占有スルニアリ即チ執達吏カ之ヲ自己ノ手中ニ預ルナリ故ニ其使用ヲ禁スルハ當然ノ結果ナリ然レトモ運搬ヲ爲スニ困難ナルモノ等ニ付テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ

明白ニスルニアリトス

一四四　第三者ノ占有中ニアルモノニシテ其提出ヲ拒マサルトキハ差押フルコトヲ得ルナリ

一四五　果實ハ未タ土地ヲ離レサル前ト雖トモ成熟期ノ前一ケ月内ニ於テハ差押フルコトヲ得蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ差押フルコトヲ得サルモノトス

一四六　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ産出物ニモ當然及フモノトス

一四七　左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

イ　衣服寢具家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

ロ　債權者及ヒ其家族ニ必要ナル一ケ月ノ食料及ヒ薪炭

ハ　技術者職工勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業缺ク可カラサル物

ニ　農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具家畜肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

ホ　文武官吏神職僧侶公立私立ノ教育場教師辯護士公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

ヘ　文武ノ官吏神職僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入恩給金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

ト　藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲スニ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

チ　勳章及ヒ名譽ノ證標

リ　實印其他職業ニ必要ナル印

ヌ　神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

ル　系譜

ヲ　債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

ワ　債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ其「ハ」乃至「チ」ニ掲ケタル物ヲ除ク外

之ヲ差押フルコトヲ得

一四八　執達吏ハ差押後少クトモ七日ヲ經タル後公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却スルモノトス差押ノ金錢ハ債權者ニ引渡スモノトス

一四九　競賣期日ノ終ニ至ルモ尚執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス

第三項　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

一五〇　第三者（第三債務者）ニ對スル債務者ノ有體物若クハ有價證券ノ差押命令ヲ以テ爲ス例ヘハ甲ヨリ乙ニ金錢ヲ貸付ケアル場合ニ丙ハ乙ニ返濟スヘキ金錢アルトキハ丙カ乙ニ返濟スヘキ金錢ノ債權ヲ差押フルカ如シ即チ丙ハ第三債務者ニシテ有體物及ヒ有價證券ノ引渡アル場合ニ於テモ亦同シ即チ乙ハ丙ノ辨濟ヲ受ケ甲ニ返濟セスシテ其債權ヲ害スルカ如キコトナカラシメンカ爲ナリトス此差押ハ甲ヨリ丙ニ對スル差押命令ヲ以テ爲スモノニシテ此執行裁判所ハ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ナリトス

一五一　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ノ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示スヘキモノトス此申請ニハ書式ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ〔此申請書式ハ書式第五十四號ノ如シ〕

一五二　金錢ノ債權ヲ差押フル可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可ラサルコトヲ命スルモ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知アルモノトス

一五三　抵當權アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アルモノトス此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト併合スルコトヲ得ルモノトス

一五四　裁判所ハ義務ヲ負フタル不動產ノ所有者即チ第三債務者ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

一五五　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ撰擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランコヲ申請スルコトヲ得ヘシ代位トハ債務者ニ代リ債務者カ他ニ有スル債權ヲ取立ツル手續ヲ云フ

一五六　支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其轉付命令ヲ送達シタルニ因リ債務者ハ債權ノ辯濟ヲ爲シタルモノト看做サルルモノトス

一五七　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ債務者ニ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス右ノ許可ハ裁判所ヨリ第三債務者及ヒ債權者ニ通知アルモノトス

一五八　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スモノトス

一五九　俸給又ハ是ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限リシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス即チ給料養料年金恩給扶助料地代家賃等ニアリトス

一六〇　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官轉任又ハ增俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

一六一　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ルコトヲ得(民事訴訟法第六〇三條)

一六二　有體動產ノ請求ノ差押ニ付テハ其動產ヲ債務者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可キモノトス右動產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規則ヲ適用ス可キモノトス即チ公ノ競賣方法ヲ以テ賣却ス可キモノトス

一六三　不動產ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動產ヲ不動產所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命スルモノトス引渡シタル不動產ハ競賣ニ附スルモノトス

一六四　左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス

イ　法律上ノ養料

ロ　債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

ハ　下士卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

ニ　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入

ホ　文武ノ官吏神職僧侶及ヒ公立私立ノ敎育場敎師ノ職務上ノ收入恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

ヘ　職工勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メニ受クル報酬

「イホヘ」ノ場合ニ於テ職務上ノ收入恩給其他ノ收入カ一ケ年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス

一六五　民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債務者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコヲ得ヘシ支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令ア

リタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第二款　不動産ニ關スル強制執行

一六六　不動産ニ對スル強制執行ハ強制競賣ト強制管理ノ二方法ナリトス此執行ハ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ管轄スルモノトス

一六七　強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ爲ス可キモノトス其申立ハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添フルモノトス

イ　登記簿ノ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書

ロ　登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書

ハ　地所ニ付テハ國郡市町村字番地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一ケ年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

ニ　建物ニ付テハ國郡市町村字番地構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付納ム可キ一ケ年ノ公課ヲ證ス可キ證書

ホ　地所建物ニ付賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證スル書

キ　證書

「ロハニ」ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得ニホ」ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモノトス強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ「イ乃至ホ」ノ要件ヲ記載シタルモノアルトキハ其證書ヲ添ユルニ及ハス「競賣申立書式ハ書式第六十五號ノ如シ」競賣申立ハ之ヲ取下クルコトヲ得ルモノトス「其書式ハ書式第六十六號ノ如シ」

一六八　強制管理トハ差押ヘタル不動產ヲ競賣セス管理人ヲ設ケテ管理セシメ收益ヲナシ債務ヲ辨償ス可キ方法手續ナリトス

一六九　管理人ハ裁判所之ヲ任スルモノトス管理人ハ不動產ヨリ得タル收益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ヲ配當スルモノトス若シ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨裁判所ニ届出ツルモノトス裁判所ハ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシムルモノトス

第三節　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

一七〇　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キ場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證スル書

キ　證書

「ロハニ」ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得ニホ」ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモノトス強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ「イ乃至ホ」ノ要件ヲ記載シタルモノアルトキハ其證書ヲ添ユルニ及ハス「競賣申立書式ハ書式第六十五號ノ如シ」競賣申立ハ之ヲ取下クルコトヲ得ルモノトス「其書式ハ書式第六十六號ノ如シ」

一六八　強制管理トハ差押ヘタル不動產ヲ競賣セス管理人ヲ設ケテ管理セシメ收益ヲナシ債務ヲ辨償ス可キ方法手續ナリトス

一六九　管理人ハ裁判所之ヲ任スルモノトス管理人ハ不動產ヨリ得タル收益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ヲ配當スルモノトス若シ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨裁判所ニ届出ツルモノトス裁判所ハ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシムルモノトス

第三節　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

一七〇　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キ場合ニ於テハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡スモノトス例ヘハ甲ヨリ乙ニ權利義務實行法一冊(特定物)又ハ米千石(代替物)ヲ賣渡シタルトキノ如キハ執達吏ハ書冊又ハ米千石ヲ取上ケ乙ニ引渡スカ如シ

一七一　債務者カ不動產又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ占有ヲ得セシム可キモノトス尤此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

一七二　強制執行ノ目的物ニアラサル動產ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡スモノトス若シ債務者不在ナルキハ其代理人又ハ債務者ノ

成長シタル家族若クハ雇人ニ引渡ス可キモノトス若シ又是等ノモノ不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付スヘキモノトス債務者カ右動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託スヘキモノトス

一七三 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニヨリ金錢債權之差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付スヘキモノトス

一七四 民法第四百十四條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲スモノトス債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得尤モ其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキハ後日其請求ヲ爲スヲ得ルモノトス(例ヘハ債務者カ爲スヘキヲ爲サヽルトキ即チ建築シ又ハ他人ノ負債ヲ償却スル事工事ヲ爲サヽル中止スル等ノ行爲ニ付債務

者ニ於テ契約ノ如ク爲サヽルトキナルトキ第一審ノ訴ヲ受ケタル裁判所ハ申立ニヨリ民法ノ規定ニ從ヒ決定ヲナスモノトス尤モ其費用ニ付決定アリタルヨリ多額ヲ要シタル場合ハ後日請求シ得ルニアリ)。

第四節 假差押及ヒ假處分

一七五 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付動產又ハ不動產ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ裁判確定前ニ爲ス可キ手續ニシテ裁判ノ執行ヲ容易ナラシメントスルモノニ外ナラス而シテ裁判確定前ナルヲ以テ未タ訴訟ノ起ラサル前ニ爲スコトアルヘク又ハ訴訟後ニ爲スコトアルヘシ又期限ノ未タ至ラサル請求ニ付テモ爲スコトヲ得ルモノトス

一七六 假差押ノ命令ハ假ニ差押フヘキ物件ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請スルカ又ハ訴訟管轄ノ裁判所ニ申請スヘク强テ物ノ所在地ノ裁判所ナルト否トニ關セサルモノトス是レ便宜上之ヲ許シタルモノナリ假差押ノ申請ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ルモノトス

〔其申請書式ハ書式第六十九號ノ如シ〕

一七七　裁判所ニ於テハ假差押ニ付保證ヲ立テシムルコトヲ命スルコトアリ此場合ハ保證ヲ立ツルニアラサレハ假差押ヲ爲スヿヲ得ス

一七八　假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

一七九　債務者ハ假差押ノ命令ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ〔其書式ハ書式第七十號ノ如シ〕

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出シ口頭辯論後終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一部ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又ハ保證ヲ立テシムルノ條件付言渡アルモノトス其裁判ニシテ假差押ノ命令ヲ認可スルトキハ本案カ未タ訴訟ト爲ラサルモノナルトキハ債權者ニ對シテ來ル何日迄ニ訴訟ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルモノトス若シ期間ヲ經過スルトキハ債務者ノ申立ニヨリ假差押ヲ取消サル可シ〔假差押命令取消申立書式ハ書式第七十一號ノ如シ〕

一八〇　假處分モ假差押ト同シク裁判確定前ニ爲スコトヲ得ルハ同樣ニシテ現場ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スヿ能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキニ之ヲ申請スルモノトス其管轄ハ本案ノ裁判所ナレトモ急迫ノ場合ハ係爭物ノ所在地ノ區裁判所ニ爲スコトヲ得ルモノトス

一八一　假處分申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ルモノトス〔假處分申請書ハ書式第七十二號ノ如シ〕

一八二　急迫ナル場合ハ區裁判所ノ命ニヨリ假處分ノ當否ニ付テノ辯論ノ爲メ本案ノ裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトアルヲ以テ申請人ハ其申立ヲ爲サヽル可ラス若シ其期間ヲ經過セハ一方ノ申立ニヨリ假處分ヲ取消サルヽモノトス其他假差押手續ニ同シ

第六章　公示催告手續

一八三　公示催告トハ未定又ハ不知ノ相手方ニ對シ權利ノ届出ヲ催告スル手續ヲ云フ例ヘハ相續權者アリヤ請求者ハ何人ナルヤ知ル可ラサル場合ニ在テ我々ニ對シ權利アル人々ハ請求シ來ラルヘシト云フ催告ヲ爲シタル裁判所ニ請求シ公告ヲ受ケタラ其期間内ニ届出テサレハ之ニアリ即チ裁判所ニ請求シ公告ヲ受ケタラ其期間内ニ届出テサレハ之

レカ義務ナシトスルモノヲ云フナリ尤モ法律ニ於テ公示催告ノ手續ヲ以テ爲ス可キ旨規定シアル場合ニ限ルモノトス

一八四　公示催告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ三ケ月間掲示セラルヽモノトス

一八五　公示催告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲シ裁判所ニ於テ之ヲ許可スルトキハ公示催告ヲ爲スモノトス公示催告期間ノ終リニ至レハ申立人ハ更ニ除權判決ノ申立ヲ爲シ裁判所ニ於テ之ヲ許ストキハ除權判決ヲ爲シテ之ヲ官報ニ公告ス

一八六　除權判決ヲ受ケタルモノハ上訴ヲ爲スヲ得ス尤モ催告裁判所ノ所在地ノ地方裁判所ニ申立人ヲ被告トシ訴ヲ以テ不服ヲ申立テ取消ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス

一八七　公示催告ハ窃取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ於テ無效ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無效宣言ヲ受ケンカ爲ニモ之カ手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○附錄

○取得時效及ヒ消滅時效ニ關スル件

一八八　二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス(民法第百六十二條)

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動產ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動產ノ所有權ヲ取得ス(仝條)

右ハ取得時效ノ場合ニシテ依賴寄托保管等ヲ受ケタルニ非スシテ自己ノ所有ト信シテ所有シタル以上ハ完全ナル所有者アリシトキト雖トモ年限經過後ハ所有權ヲ取得スルニアリ而シテ前段ハ惡意其他占有ノ方法原因ノ何タルヲ問ハサル場合ナレトモ後段ハ善意ニシテ正當ニ完全ニ所有權ヲ得タルモノト信シ且其信シタルハ自己ノ過失ニ非ラサル場合ニ係ルモノトス而シテ前段ニハ動產不動產ヲ區別セス第二項ハ單ニ不動產ニ付テ規定セリ是レ動產ニシテ善意ニシテ過失

ナク其物ヲ占有スル場合ハ占有ノ效力ニヨリ即時ニ所有權ヲ得ルニ依ルカ故ナリ

一八九　所有權以外ノ財產權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ又右規定ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得スルモノトス(民法第百六十三條)是レ其物權タルト債權タルトヲ問ハス自己ノ爲メニ行使スル者ニ係ル規定ニシテ又前二項ノ區別ニ依リ其權利ヲ取得スルモノトス

一九〇　債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス債權又ハ所有權ニ非サル財產權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(民法第百六十七條)

右ハ消滅時效ノ場合ヲ規定シタル者ニシテ總テノ債權ハ十年間其權利ヲ行使セサルキ即請求督促等ヲ爲サヽルキハ其權利ハ消滅スヘキモノトス而シテ其善意ト惡意トヲ問ハサルナリ又所有權ニアラサル財產權即チ物權等ハ二十年間之ヲ行ハサルニヨリテ消滅ス其債權ヨリ長キハ之ヲ證明スルニ易ク債權ノ如ク取引頻繁ナラサルニヨル

一九一　尤モ取得時效及ヒ消滅時效トモ左ノ事由ニ因リテ中斷セラルヽモノトス

一　請求

二　差押假差押又ハ假處分

三　承認

右請求ハ返還辨濟ヲ請求スルヲ云ヒ差押假差押又ハ假處分ハ公力ニヨル强制手續及ヒ處分ヲ云ヒ承認トハ占有者又ハ義務者カ相手方ノ權利ヲ認ムルヲ云フナリ右時效ヲ中斷シタルトキハ中斷ノ事由ノ終リタルトキヨリ更ニ規定ノ年限ヲ經サレハ時效ヲ得サルモノトス

一九二　猶各種ノ債權ニシテ消滅時效ノ場合ヲ列擧スレハ左ノ如シ

イ　定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ(民法第一六八條)

定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得(仝條)

ロ　年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(民法第一六九條)

ハ　左ニ揭ケル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(民法一七〇條)

一　醫師產婆及ヒ藥劑師ノ治術勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

二　技師棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權但此時效ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス(民法第一七〇條)

ニ　辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付其責ヲ免ル(民法第一七一條)

ホ　辯護士公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖トモ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス(民法第一七二條)

ヘ　左ニ揭ケル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ依リ消滅ス(民法第一七三條

一　生產者卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

二　居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三　生徒及ヒ習業者ノ教育衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主塾主教師及ヒ師匠ノ債權

ト　左ニ揭ケル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料

二　勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

三　運送賃

四　旅店料理店貸席及ヒ娛遊場ノ宿泊料飲食料席料木戶錢消費物代價並ニ立替金

五　動產ノ損料

右各種ノ債權ハ其證明ノ困難ナルヨリ速カニ確定スルヲ必要トスル

趣旨ヨリ規定セラレタルモノトス若シ規定ノ期限内權利ヲ行使セサルトキ即チ請求履行ヲ要求セサレハ法律ハ其權利ヲ抛棄シタルモノト看做スヘシ

○利息制限ニ關スル件

一九三　契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無效ノモノトシ各制限ニ依テ引直サルヽモノトス(明治十年九月布告第六十六號)

一九四　右定限利息ノ外契約ヲ以テ禮金棒引等ノ名目ヲ用ル者アリトモ總テ裁判上無效ナリトス(仝上)

一九五　返濟期限ヲ過クルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ償金罰金科料等ヲ差出スコトヲ約定スルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該償主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(仝上)

第二編　刑事訴訟ニ關スル件

第一章　出訴手續

第一節　告訴ニ關スル件

一　何人ニテモ犯罪ニヨリ損害ヲ受ケタルモノハ犯罪アリタル地ノ裁判所ノ檢事又ハ司法警察官ニ訴ヘ出ツルコトヲ得ルモノトス之ヲ告訴ト云フ即チ告訴トハ犯罪ノ害ヲ受ケタルモノヨリ訴ヘ出ツル訴ニシテ司法警察官トハ左ニ記載シタルモノヲ云フナリ

一　警視警部長警部

一　憲兵將校下士

一　島司

一　郡長

一　林務官

一　市町村長

警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪

ヲ捜査スルニ付地方裁判所検事ト同一ノ権ヲ有スルモノトス尤モ東京府知事ハ此限リニアラス是レ事務多端ナルカ為メ別ニ警視廳ヲ置カレタルニヨル

然レトモ一般警察事務ヲ扱フハ警視警部長警部ニシテ其他ハ主管事務ニ付或ハ急迫ノ場合便宜上其職務ヲ與ヘラレアレトモ普通ハ専任者タル警察官即チ警視警部長警部ニ於テ取扱フモノトス故ニ裁判所ノ検事局又ハ警察署ニ出頭シテ訴ヲ為ス可キモノトス

二　告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ為ス可キモノトス又口頭ニテ訴フルコトヲ得ルナリ而シテ告訴人ハ成ルヘク其證憑及ヒ事實參考トナル可キコトヲ申立ツ可キモノトス即チ犯罪ノ種類性質状況犯罪ノ場所日時犯罪人ノ員數氏名容貌又ハ犯罪人ノ不明ナルコト被害ノ詳細證據物件等ヲ申立テ其告訴ノ目的ヲ開クヲ要スルニアリ若シ告訴ニシテ不明ナルトキハ検事ニ於テ捜査起訴スルニ由ナクシテ告訴ノ目的モ達スルコト能ハサルニ至ルヘシ〔告訴狀書式ハ書式第七十六號乃至第八十一號ノ如シ〕

三　告訴ハ代人ニ委任シテ為スコトヲ得ヘシ代人ニ委任シテ為スニハ委任ヲ證明スル委任狀ヲ要スルモノトス委任狀ニハ其寫ヲ告訴狀ニ添ヘ差出ス可キモノトス〔委任狀書式ハ書式第八十三號ノ如シ〕無能力者ノ告訴ハ法律上代理人ニ於テ為スモ差支ナシ〔無能力者及ヒ法律上代理人ノコトハ第二章第八節ニ詳カナリ〕

告訴ハ何時ニテモ取下ヲ為スコトヲ得ヘシ〔取下書式ハ書式第八十二號ノ如シ〕又增減變更スルコトヲ得ルモノトス〔增減變更申立書式ハ書式第八十四號ノ如シ〕

四　告訴ニシテ検事ニ於テ起訴アルカ又ハ棄却トナルトキハ告訴人ニ通知アルヘキモノトス起訴アリタルトキハ告訴人ニ於テ民事原告人トナルノ申立ヲ為シ其損害ノ賠償ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ之ヲ私訴ト云フ尤モ此ノ申立ハ其金額ノ多少ニ拘ラス其犯罪ニ付公訴ノ起リツヽアル裁判所ヘ裁判ノ言渡アルマテ何時ニテモ為スコトヲ得ヘク又告訴ト同時ニ為スコトヲ得ヘシ但シ其申立ヲ為スト否トハ告訴人ノ隨意ナリ〔私訴申立書式ハ書式第八十五號ノ如シ〕

第二節　告發ニ關スル件

五　告發ハ犯罪アリタルコトヲ聞キ又ハ知リタルモノヨリ訴フルモノニシテ犯罪ノ爲メニ損害ヲ受ケタル被害者以外ノモノヨリ爲スモノナリ告發ハ犯罪ノ地又ハ告發人住居ノ地ノ檢事及ヒ司法警察官ニ爲スコトヲ得ルモノトス又成ルヘク證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事實ヲ申立テ及代人ヲ以テシ告發人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テシ又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ル等告訴ニ於ケルト同一ナリトス(告發狀書式ハ書式第八十六號ノ如シ)

六　官吏公吏カ職務上發見シタル犯罪ハ總テ檢事ニ告發ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第三節　起訴豫審進行順序

七　告訴又ハ告發アリタルトキハ警察署及ヒ檢事局ニ於テ搜査ヲナシタル後犯罪ノ見込アルモノハ檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲スモノトス起訴トハ公訴ヲ起スヲ云フ公訴ハ社會ニ屬シ私訴ハ被害者一個人ニ屬ス起訴ハ社會ノ代表者タル檢事カ原告人トナリ犯罪ヲ裁判所ニ訴フ

ルニアリ即チ其事件重罪ナルトキハ重罪裁判所ニ訴ヘ輕罪ナルトキハ輕罪裁判所ニ訴ヘ違警罪ナルトキハ違警罪裁判所ニ訴フルモノトス而シテ其事件輕易ニシテ證據ノ充分ナルモノハ直チニ右管轄裁判所ヘ訴フレトモ繁難ナルモノニアリテハ豫審判事ニ豫審ヲ求ムルモノトス(裁判所搆成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル違警罪及ヒ輕罪ハ豫審ニ附スルコトナシ)尤モ重罪ハ必ス豫審ヲ經サル可ラス重罪及ヒ輕罪ハ地方裁判所ニ於テ開廷シ區裁判所ハ裁判所搆成法第十六條第一號第二號ニ記載シアル違警罪及ヒ本刑五十圓以下ノ禁錮又ハ單ニ二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ二百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪併ニ刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情右ニ揭ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ移付シタル輕罪ヲ管轄スルナリ(此區裁判所管轄事項ノ外普通犯罪ハ總テ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス)然レトモ違警罪ハ現今警察署ニ於テ即決例ニヨ

リ即決處分ヲ行ヘリ

八　豫審ニ附シタルモノハ豫審判事ニ於テ被告人ニ對シテ令狀ヲ發シ諸般ノ取調ヲ爲シ取調終ラハ豫審ヲ終結シ何々裁判所ノ重罪又ハ輕罪公判ニ移スノ決定ヲ爲ス其決定ニヨリ事件ヲ移付セラレタル裁判所ハ之ヲ受領シ公判期日ヲ定メテ被告人及ヒ民事原告人ニ通知アルモノトス(豫審ニ附セスシテ檢事ヨリ直ニ公判ニ附シタルモノモ同シ)

通知ヲ受ケタル民事原告人ハ其期日出頭シ其辯論ニ與リ被害ノ申立ヲ爲シ賠償ヲ要求スルコトヲ得ルナリ

九　訴訟關係人ハ裁判所所在地ニ居住セサルトキハ假住所ヲ定メテ裁判所ニ屆ケ置クヲ要ス然ラサレハ書類ノ送達ナシト雖トモ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス是レ書類送達ノ便利ト費用トヲ省キ裁判ノ進行ヲ速カナラシムル便宜アルカ故ナリ訴訟關係人トハ刑事ニ在テハ檢事被告人民事原告人民事擔當人ヲ云フ本項ハ民事原告人民事擔當人ニ付テ云フナリ

第四節　公判順序

一〇　公判期日ニハ呼出シタル關係人一同ヲ入廷セシメ裁判官着席書記ハ被告人及ヒ民事原告人ノ氏名ヲ呼立テ公判開廷ノ旨ヲ告ク判事ハ先ツ被告人ノ住所氏名年齡身分職業住所出生ノ地ヲ問フ被告人之ニ答フ次ニ檢事ハ公訴ノ次第ヲ陳述ス(公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トス抑犯罪ハ直接一個人ヲ害スルト同時ニ間接ニ社會全般ノ公益ヲ害スルモノナルヲ以テ檢事ハ社會公衆ニ代リ原告人ト爲リ訴ヲ起スニアリ故ニ公訴ト云フ)判事ハ被告事件ニ付事實ヲ訊問ス被告人ハ之ニ答フ事實ノ訊問終リテ判事ハ證據調ヲ爲ス旨ヲ告ク此場合ハ證據書類ヲ書記ニ朗讀セシメ又ハ證人ノ供述ヲ聽キ其他一切ノ證憑ヲ取調フルニアリ尤モ書類ノ朗讀ハ關係人ニ於テ異議ナキトキハ省略スルコトアリ次ニ檢事ハ事實及ヒ法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述ス被告人辯護人ハ答辯ヲ爲スソレヨリ檢事被告人辯護人ハ互ニ辯論ス辯論ノ最終ニハ判事ハ被告人及ヒ辯護人ヲシテ最終ノ供述ヲ爲サシム次ニ民事原告人ヲシテ被害ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付其請求スル所ヲ陳述セシム判事ハ被害ノ事實ノ明瞭ナル場合ハ之ヲ略シ單

ニ民事原告人一定ノ申立ヲ爲セヨト命ス一定ノ申立ハ民事訴訟ノ部ニ於テ詳記シタルカ如ク書面ニ基キ陳述スルニ止マリ餘事ニ渉ル可カラス例ヘハ被告人ハ民事原告人ニ加ヘタル損害金何圓ヲ賠償スヘシ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストノ御判決アランコヲ願ヒマス云々ト申立ツルモノトス被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ス檢事ニ於テ意見アレハ陳述ス次ニ判決ヲ言渡ス順序トナルナリ判決ハ即日言渡アルカ或ハ何日言渡ス旨ヲ告ケ閉廷トナルモノトス右事實ノ訊問及ヒ證據調又ハ辯論等繁難ナル事件ハ數日ニ渉ルコトアリ

一一 刑事訴訟手續ハ以上ノ順序ニ外ナラサルモ其間心得置ク可キ事項アリ其必要條項ヲ第二章以下ニ記載ス可シ

第五節　欠席判決ニ關スル件

一二 呼出ヲ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル事件ニ付其代人公判ノ期日ニ出頭セサルトキハ檢事ニ請求スル所ヲ聽キ欠席判決アルモノトス

一三 私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ欠席判決

ヲ爲ス可キモノトス(民事訴訟ニ關スル欠席判決ノ部ヲ參照ス可シ)

一四 逃亡中ノ被告人ニ付テハ一應呼出狀ヲ送達シタル後欠席判決ヲ爲ス可キモノトス

一五 欠席裁判ヲ受ケタルモノハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ其申立期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ欠席判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マルモノトス

一六 故障ハ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ差出ス可キモノトス(故障申立書式ハ書式第九十六號ノ如シ)

一七 故障ノ申立ニシテ裁判所ニ於テ受理シタル場合ハ更ニ通常ノ手續ニヨリ裁判アルモノトス

第二章　刑事訴訟上須知要件

第一節　公訴私訴ノ時效

一八 時效トハ或ル期間ヲ經過シ一般ノ遺忘ニヨリ其犯罪ヲ擧ケ

ノ必要去リタル時期ヲ云フ公訴ノ時效ハ左ノ如シ

一違警罪ハ六ケ月
一輕罪ハ三年
一重罪ハ十年

右ノ期間ヲ經過シタルトキハ公訴ヲ起スコトヲ得サルヲ以テ告訴告發ノ效ナキモノトス而シテ私訴ノ時效モ公訴ト同一ナリトス

刑ノ時效ハ稍々長シ參考ノ爲メ左ニ記載ス可シ

一死刑ハ三十年
一無期徒刑及ヒ無期流刑ハ二十五年
一有期徒刑及ヒ有期流刑ハ二十年
一重懲役重禁獄ハ十五年
一禁錮罰金ハ七年
一拘留科料ハ一年

前者ハ判決前ニ係リ後者ハ犯罪ヲ確認セラレ處分ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其時效ノ程度ニ長短アルハ當然ノ數ナリト云フ可シ

第二節　被告人損害賠償ヲ要ルヲ得ル場合

一九　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由ハ告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得ルナリ又縱シ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖トモ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付過實ノ申立ヲ爲シタルトキモ同シトス又民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得ヘシ

二〇　要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ民法上他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ必ス賠償ノ責ニ任スト云フ原則ニ基キ以上名譽上利益上來ス所ノ損害ヲ償ハレムルハ當然ノ事ト謂フヘシ〔損害賠償ノ訴狀書式ハ書式第十號ノ例ノ如シ〕

第三節　書類作成方ノ件

二一　裁判所ヘ提出スル書類ハ本人自ラ署名捺印スヘキモノトス若シ

署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏公吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ノ外立會人代書シ其事由ヲ記載スヘキモノトス又書面ノ文字ヲ變更又ハ可ラス若シ挿入（書キ入ルヽ削除（ケヅリノゾク）及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印スヘキモノトス文字ヲ削除スルトキハ讀ミ得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其數ヲ記載ス可キモノトス又數枚アルトキハ毎葉ニ契印スルヲ要ス

二二　以上書類作成ノ方式ハ區々ニ渉リ其效力ニ付紛爭ナカラシメンカ爲メ外ナラス

二三　右ノ方式ニ從ハサルトキハ其書類及ヒ增減變更ノ效用ナキヲ以テ殊ニ注意ヲ要スヘキナリ

第四節　告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ關スル件

二四　公訴ハ告訴ヲ待テ起ルモノニアラス又被害者ノ棄權又ハ私和ニヨリ消滅スルモノニアラストハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリ抑犯罪ハ直接一個人ヲ害スルト同時ニ間接ニ社會全般ノ安寧ヲ害スルモノナルヲ以テ社會ハ之ヲ恢復センカ爲メ刑罰權實行ノ必要上公訴ヲ爲スニアリテ其代表者タル檢事ニ依テ行ハル故ニ被害者ニシテ告訴私訴ヲ取下ケタリトテ公訴ハ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ラス依然事件ハ繼續セラルヽモノトス尤モ法律ニ於テ其例外ノ場合ヲ規定セリ其種類左ノ如シ

一脅迫ノ罪（刑法第三百二十六條以下）

一幼者ヲ略取誘拐スルノ罪（刑法第三百四十六條以下）

一猥褻姦淫ノ罪（刑法第三百五十八條以下）

一誹毀ノ罪（刑法第四百二十三條）

一牛馬以外ノ家畜ヲ殺ス罪（刑法第四百二十六條）

一公然人ヲ罵詈嘲弄スルノ罪（刑法第四百二十六條）

右列擧シタル犯罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ受理スヘキモノナリ是レ社會ノ利益ヨリモ一私人ノ利益ヲ害スルモノ多ク強テ公訴ヲ起サンカ社會ノ安寧ヲ維持セントスルノ法却テ一家ノ名譽安寧ヲ害スルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ告訴アレハ受理シ告訴ナケレハ不問ニ付ス又判決確定前告訴ヲ取下クルトキハ其事件ハ消滅スヘク被

告人拘留ノ場合ハ爲メニ放免セラルヘシ

第五節　現行犯罪及ヒ其取扱要件

二五　何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得刑事訴訟法第六十條右場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可キモノトス若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査憲兵卒ニ引渡スコトヲ得ヘシ

二六　被告人ヲ巡査憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲スヘキモノトス是レ犯罪ノ事實狀況ヲ知ルノ必要アレハナリ被告人又ハ巡査憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ其ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得ヘク逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

二七　現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ（刑事訴訟法第五十六條例ヘハ盜ニ入ヲ殺スモノアリ其兇行ヲ行ヒツヽアルカ又ハ犯人既ニ逃走スルモ其所ヲ去ル未タ遠カラス鮮血淋漓タル屍体途上ニ横ハル場合又他人ノ物件ヲ窃取スル者アリ犯人僅カニ其所ヲ去ルモ被害者直チニ之ヲ覺知シタル場合ノ如シ

二八　重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ準ス（刑事訴訟法第五十六條）

イ　犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルヽトキ

ロ　兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

ハ　家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

所謂準現行犯ナルモノ是レナリ以上ノ外ハ渾テ非現行犯ナリトス

第六節　豫審ニ關スル件

二九　豫審トハ犯罪事件ノ下調ニシテ其取調ニ從事スル判事ヲ豫審判事ト云フ豫審判事ハ檢事ノ請求ニヨリ其取調ニ從事スルモノニシテ令狀ヲ發シテ被告人ヲ訊問シ證據ヲ集收シ證人ヲ訊問シ檢證ヲ爲ス等諸般ノ取調ヲ爲シタル後豫審ヲ終結シ證憑充分ナルトキハ事件ヲ公判ニ移シ又證憑不充分ナルトキハ被告人ニ對シ免訴及ヒ放免ノ決

定ヲ爲スヘキモノトス其決定書ハ被告人ニ送達アルモノトス而シテ豫審ハ公判ノ如ク傍聽ヲ許サス密行ス可キモノトス

三〇　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行犯ヲ認知シタル場合ハ檢事ノ請求ヲ俟タス其旨ヲ通知シ直チニ現場ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他諸般ノ取調ヲ爲スモノトス此場合ニアリテハ豫審判事ニ於テ檢證調書ヲ作ルヲ以テ事件ヲ受理シタルモノト看做シ豫審ヲ進行スルモノトス

三一　地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニシテ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

尤モ罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得サルモノトス又證人證定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ヰスシテ之ヲ聽クヘキモノトス

三二　右檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得只拘留狀ヲ發スルコトヲ得サルニアリ之ヲ假豫審ト稱ス

第七節　令狀ノ解

三三　何人ト雖トモ法律ニ依ルニ非サレハ逮捕監禁セラルヽコトナキヲ憲法ノ保障スル所ナリ現行犯ヲ除クノ外ハ裁判所ノ令狀又ハ豫審判事ノ令狀アルニ非サレハ拘束ヲ受クルコトナキモノトス而シテ令狀トハ召喚狀拘引狀拘留狀ナリトス召喚狀拘引狀ハ共ニ被告人ヲ出廷セシムルヲ目的トナシ拘留狀ハ被告人ヲ拘禁スルヲ以テ目的トスモノナリ又召喚狀ハ公力ニ依リ強テ其執行ヲ爲ス能ハス單ニ被告人ノ出廷ヲ促ス效力アルニ過キスト雖トモ拘引狀ハ公力ニ依リ之ヲ執行シ强テ被告人ヲ出廷セシムルノ效力アリ又拘留狀ハ被告人ヲ獄舍ニ拘禁シ其自由ヲ剝奪スルノ效力アルモノニシテ是又公力ニ依リ之ヲ執行スルモノトス

三四　召喚狀ト出頭トノ間二十四時ノ猶豫アリ又出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スルカ又遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得サルモノトス

三五　拘引狀ハ左ノ場合ニ於テ發スルモノトス

イ　被告人定リタル住所アラサルトキ

ロ　被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ

ハ　被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

是レナリ若シ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ被告人ノ所在ニ就テ訊問スルコトアルヘキモノトス

三六　拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ訊問スヘキモノトス若シ其時間ヲ經過スルトキハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可キモノトス

三七　拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス尤モ被告人逃亡シタル場合ニ於テハ訊問ヲ爲サスシテ發スルヲ得ルナリ

第八節　證據ニ關スル件

第一款　證據及ヒ其判斷ニ關スル件

三八　證據トナルヘキモノハ被告人ノ自白官吏ノ檢證調書證據物件及ヒ證定人ノ供述等ヲ云フ其他事件ニ關シテ參照トナルヘキ事物ニシテ裁判官ノ心證ヲ動スニ足ルモノハ亦證據ト云フヲ得ヘシ

三九　法律上證據ノ判斷ハ裁判官ニ一任セラレタルヲ以テ裁判官ハ公正ノ意思ニヨリ其採否ヲ決スヘキモノトス故ニ場合ニヨリ被告人ノ自白必スシモ證據トナラス官吏ノ檢證調書必スシモ信用スルニ足ラス證據ノ要ハ只判官ノ心證ヲ得ルノ事實方法ヲ具備シタル事物ニアリトス

第二款　家宅捜索物件差押ニ關スル件

四〇　人ノ家宅ヲ侵サルヽコトナキハ安靜起居ノ城廓タリ若シ濫リニ之ヲ侵サルヽコトアランカ各人何ヲ以テカ安息靜居スルヲ得ヘキ故ニ刑法ニ於テ家宅侵入罪アル所以ナリ尤モ法律ノ規定ニヨリ豫審判事カ犯罪ノ事實發見ノ爲メ必要ト認ムル場合ハ犯所及ヒ家宅其他ノ場所ニ臨ミ檢證シ捜索シ物件差押等ノ手續ヲ爲スコトアリ是レ家宅不侵ノ原則ノ例外ニ屬シ公安ノ維持上已ヲ得サルニ出ツル所トス若シ絶体ニ家宅ニ侵入スルコト能ハ

サルモノトセンカ犯罪人及ヒ證據ヲ得ルニ由ナク犯人ヲシテ法ヲ無視スルニ至ラシム故ニ此變則アル所以ナリトス又豫審判事ハ被告人其他事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ付キ捜索ヲ爲スコトヲ得ヘシ是亦捜査ノ目的ヲ達スル必要ニ基クモノトス又令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ捜索スルコトヲ得ルモノトス

四一 右豫審判事カ家宅捜索及ヒ巡査憲兵卒ノ家宅捜索ノ場合共日出前日沒後ハ捜索ヲ爲スコトヲ得サルモノトス是レ人ノ安靜ヲ重スルニヨルナリ尤モ旅店割烹店其他夜間ト雖トモ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ捜索ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第三款 被告人訊問ニ關スル件

四二 豫審判事ハ第一着ニ被告人ヲ訊問スヘキモノトス尤モ檢證ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付急速ノ場合ハ此限リニアラス是レ告訴告發ノ容易ニ信ス可カラサルモノアルト又被告人ニ於テ其罪ヲ免レンカ爲メ考慮ノ暇ナカラシメンカ爲メ等ノ必要アルカ故ナリ

四三 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ之ヲ恐嚇シ又ハ詐言ヲ用ユルヲ得サルモノトス是レ云フ迄モナク精神ノ痛苦ト畏怖トニ因リ眞實ニ反スル陳述ヲ爲サシムルカ如キヿナカラシメンカ爲メニシテ往時行ハレタル不法ノ弊風ナキヲ期セラレタルモノトス

四四 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人ニ讀聞スヘシ豫審判事ハ被告人ニ供述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシムヘキモノトス若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルモノトス

四五 被告人ハ其供述ニ付變更增減ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ錄取シテ署名捺印セシムヘキモノトス

第四款 證人訊問及ヒ證言ヲ拒ムヿヲ得ル場合ニ關スル件

四六 證人ハ被告事件ニ付裁判所ヨリ呼出ヲ受ケタル場合ニ出頭シテ

訊問ニ對シ見聞ノ事實ヲ證言スルノ義務アルモノトス若シ故ナク出頭セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ過料ニ處セラレ猶拘引セラルヽコトアルヘキモノトス

四七 證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クモ二十四時間ノ猶豫アルモノトス若シ病氣其他ノ事故ニヨリ呼出ニ應スルコト能ハサルトキハ其旨屆出ツルヲ要ス此場合ハ判事ハ其所在ニ就テ訊問スルコトアリ〔不參屆書式ハ書式第八十八號ノ如シ〕

四八 不參ノ爲メ罰金ノ言渡ヲ受ケタル證人ニシテ出頭セサリシ正當ノ事由アルキハ罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ其事由ヲ辨解シテ其取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ〔其請求書式ハ書式第八十九號ノ如シ〕

四九 證人ハ良心ニ從ヒ誠實ニ陳述スヘキ宣誓ヲ命セラルヽモノトス若シ宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ刑法第百八十條ニヨリ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

五〇 證人ニシテ事實ニ反スル陳述ヲナストキハ僞證罪ノ刑ニ處セラルヽコトアルヘシ

五一 證人ハ出頭ニ付テノ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得〔旅費日當請求書式ハ書式第九十號ノ如シ〕

五二 證人ニシテ證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合ハ左ノ如シ

イ 官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者其職務上默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ

ロ 醫師藥局穩婆辯護士辯護人公證人神職僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明ス可キモノトス證言ヲ拒ムヲ得セシムルハ元來官吏公吏カ其事實ヲ默秘シテ他ニ漏洩スヘカラサルモノニ在テハ國家ノ安否利害ニ關スルモノナレハナリ其他ノモノニアリテハ各人ノ利益ト社會ノ安寧トヲ害スルニ至ルモノアルニ由ル

第五款 鑑定人ニ關スル件

五三 鑑定人ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムルカ爲メ學術

職業等特別ノ技能アルモノニシテ裁判所ノ命ニヨリ鑑定人トシテ呼出ヲ受ケタルモノヲ云フ

五四　鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキハ證人ト同様罰金ノ處分ヲ受クルモ拘引スルコトナシ是レ證人ハ事實見聞上一人ニ限レルヲ以テ必ス其訊問ヲ必要トスレトモ鑑定人ハ他ニ人ヲ求ムルヲ得ルカ故ニ強テ其者ヲ拘引スルノ必要ナキニ由ルナリ

五五　鑑定人ハ公平誠實ニ鑑定スヘキ宣誓ヲ命セラルヽモノトス若シ宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ刑法第百七十九條ニヨリ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處セラルヽモノトス

五六　鑑定人ハ旅費日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ請求スルヿヲ得ル者トス

第八節　無能力者及ヒ法律上代理人民事擔當人ニ關スル件

五七　無能力者トハ左ニ記載スルモノヲ云フ

第一　未成年者白痴瘋癲人

第二　有夫ノ婦

第三　禁治産者

第一ハ知覺精神ノ不充分ナルモノニシテ普通ノ能力ナキモノヲ云フ之ヲ自然ノ無能力者ト云フ第二ハ知覺精神充分ナルモ特別ノ理由ニヨリ無能力トナスモノナリ之ヲ法律上ノ無能力者ト云フ第三ハ裁判上治産ノ禁ヲ受ケタル者ニシテ是レ亦知覺精神不充分ナラサルモ特別ノ理由ニヨリ無能力者トナスニアリ之ヲ裁判上ノ無能力者ト云フ

五八　右三種ノ無能力者ハ自ラ權利ヲ行フコト能ハサルヲ以テ法律上代理人ヲ定メ其代理人ニ依テ行ハシム法律上ノ代理人ハ左ノ如シ

イ　未成年者ノ父母親屬又ハ後見人

ロ　夫

ハ　白痴瘋癲人ノ後見人

ニ　治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人

右ニ列記シタル法律上ノ代理人ハ無能力ノ爲メ諸般ノ事務ヲ處理スルノ任アルヲ以テ特ニ委任ヲ受ケサルトキト雖トモ當然代理ヲ爲シ得ヘシ

五九　民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ如シ(明治十四年十二月第七十三號布告)

一　未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二　夫タル者

三　白痴癲癇者ノ保管者

未成年者ノ父母親屬後見人ハ未丁年者ノ敎育監督ヲ爲スノ義務アルモノニ付其子カ犯罪ニ因リ他人ニ損害ヲ加フトキハ民事擔當人トナリ賠償ノ責ニ任セサルヘカラス是レ其義務ヲ怠ルノ致ス所アレハナリ又婦ノ夫ニ於ケル白痴癲癇人ノ保管者ニ於ケル特別ノ理由又保護監督ノ任ニアルモノナルカ故ニ民事擔當人トシテ賠償ノ責ニ任セシムル所以ナリ

第九節　保釋手續

六〇　保釋トハ拘留中ノ被告人カ保證人ヲ立テ、假ニ釋放ヲ受クル處分ヲ云フモノニシテ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭スヘキ證書ヲ差出シテ其請求ヲ爲ス可キモノトス(保釋願書式ハ書式第九十一號ノ如シ)

六一　被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

六二　保釋ヲ許サルヽノ言渡アリタルトキハ其地方裁判所ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ裁判所ニ於テ許否ノ決定ヲ與ヘラルヽモノトス(保釋不許可ニ對スル異議申立書式ハ書式第九十三號ノ如シ)

六三　保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記載ス可キモノトス

六四　保證ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出ス可キモノトス又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スコトヲ得ヘシ

六五　保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收セラルヘク且保釋ヲ取消サルヽモノトス

第十節　責付ニ關スル件

六六 責付モ保釋ト同シク拘留中ノ被告人ニ身體ノ自由ヲ與フルモノニシテ逃亡及ヒ證據湮滅ノ恐レナキモノト思料シタル場合ニ爲スヘキモノトス其保釋ト異ナルハ保證ヲ立ツルニ及ハサルコト被告人ヨリ請求アルヲ要セスシテ豫審判事ニ於テ捻事ノ意見ヲ聽キ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出サシメテ之ヲ爲スモノトス責付ハ即チ預クルナリ〔責付證書式ハ書式第九十四號ノ如シ〕

第十一節 辯護人選用ノ件

六七 被告人ハ公判ノ際辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得ヘシ辯護人ハ裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘキモノトス尤モ裁判所ノ允許ヲ得タルトキハ辯護士ニ非ラサルモノト雖トモ辯護人ト爲スコトヲ得ヘシ

第十二節 補佐人ノ辯論ニ與ルヲ得ルノ件

六八 被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人トシテ辯論ニ與カルコトヲ得ヘシ法律上代理人即チ被告人ニ對シテ親權ヲ有スル父母若クハ無能者ノ後見人等ニアリテハ常ニ其監督ノ下ニ在ル無能力ノ利益ヲ保護スルノ責アルノミナラス場合ニヨリテハ其被監督者ノ行爲ニ付民事上ノ責任ヲ負フモノナレハナリ〔補佐人屆書式ハ書式第九十五號ノ如シ〕

第三章 上訴手續

第一節 控訴ニ關スル件

六九 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又管轄違及ヒ公訴受理スヘカラサル申立ニシテ却下セラレタル場合ハ本案ノ判決ヲ待タス控訴スルコトヲ得ルナリ若シ控訴院ニ繫屬中ナルトキハ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

七〇 控訴ハ判決ノ一部ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做サルヘシ

七一 控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス欠席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間內故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ得スコトヲ得

ヘシ

七二 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所(判決ヲ爲シタル裁判所)ニ差出ス可キモノトス〔控訴狀書式ハ書式第九十七號ノ如シ〕控訴ノ相手方及ヒ檢事ハ其判決アルマテ何時ニテモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

七三 控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘク又控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決アルモノトス

七四 控訴ニシテ被告人辯護人又ハ法律上代理人ニ於テ爲ス場合ハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ得サルモ檢事ノ控訴又ハ附帶控訴ニ係ルトキハ此限リニ非ス例ヘハ原裁判所ニ於テ被告人ハ重罪ノ犯人ナルコトヲ認メ之ニ科スルニ過テ違警罪ノ刑ヲ以テシタルニ被告人ハ無罪ヲ主張シ控訴ヲ爲シタリ此場合ニ於テ檢事ヨリ重罪ナリトノ附帶控訴ヲ爲サヽルトキハ控訴裁判所ニ於テ其違法ヲ認ムルトキト雖トモ原判決ヲ變更シ更ニ重キ刑ヲ科スルヲ得サルカ如シ

七五 控訴ハ何時ニテモ取下クルコトヲ得ヘシ〔取下書式ハ書式第九十九號ノ如シ〕

七六 控訴ノ裁判ハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ依ルモノトス

第二節 上告ニ關スル件

七七 上告ハ原裁判ノ事實ノ當否ヲ審査スルニアラス只原裁判所カ法律ノ規定シタル手續ニ依リ審判シタルヤ否又原判決ハ法律ヲ適用シタルヤ否其認メタル事實ニ相當ノ審判シ其誤謬ヲ更正スルヲ目的トスルモノトス

七八 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサル申立ノ却下ニ對シ爲スコトヲ得ヘシ

七九 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

八〇 法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタル

モノトス

八一　左ノ場合ハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス（刑事訴訟法第百六十九條）

イ　規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

ロ　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

ハ　判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ラス裁判ニ參與シタルトキ

ニ　裁判所ニ於テ其管轄違ヲ不當ト認メタルトキ

ホ　法律ニ背キ公理ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ

ヘ　法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

ト　裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

チ　判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辯論ヲ公ニセサルトキ

リ　裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ

以上十ケノ場合トス

八二　上告申立期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日トス（上告狀書式ハ書式第百號ノ如シ）

八三　上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ヘ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ趣意書ヲ差出スヘキモノトス（趣意書書式ハ書式第百一號ノ如シ）

八四　上告ハ何時ニテモ取下ヲ爲スコトヲ得ヘシ（上告取下書式ハ書式第百二號ノ如シ）

八五　裁判所ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ之ヲ受取リタル日ヨリ五日內ニ答辯書ヲ原裁判所ヘ差出スコトヲ得ヘシ（答辯書式ハ書式第百三號ノ如シ）檢事ノ上告ノ場合モ同樣ナリトス

八六　上告ノ相手方ハ其判決アルヲマテ附帶上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ檢

事モ亦附帶上告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第三節　抗告ニ關スル件

八七　抗告ハ直近上級裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スモノトス

八八　抗告ノ期間ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三日トス

八九　抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可キモノトス抗告ヲ受ケタル裁判所又ハ豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由アリト爲シ又理由ナシトスルトキハ其申立書ヲ抗告裁判所ヘ送致スルモノトス〔抗告申立書式ハ書式第百四號ノ如シ〕

第四節　再審ニ關スル件

九〇　再審トハ既ニ確定シタル判決ニ對シ法律ノ定メタル原由ノ存スル場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ判決確定後ニ於テ再ヒ其事件ヲ審理セラレンコトヲ請求スル所ノ上訴ナリ

九一　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

イ　人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存後又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

ロ　同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

ハ　犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

ニ　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

ホ　公正證書ヲ以テ訴訟記錄ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

ヘ　判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

以上六個ノ場合トス右ニ揭クル公正證書トハ公吏又ハ官吏カ其職務ヲ以テ作リタル證書ニシテ一私人ノ妄リニ作リ得ヘキモノニ非ラス必ス法律ニ從ヒ一定ノ資格アル者カ其權限內ニ於テ作リタルモノナラサルヘカラス

九二　再審ノ訴ハ其趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ原裁判所ニ差出ス可キモノトス〔再審ノ訴狀書式ハ書式第百五號ノ如シ〕

第四章　復權手續

九三　復權トハ重罪ノ宣告ヲ受ケ公權ヲ剝奪セラレタル者カ其權利ヲ回復スルノ義ナリ

九四　復權ヲ得ントスルニハ主刑ノ終了シタル日ヨリ起算シテ五ケ年又主刑カ期滿免除ニ由リテ終了シタルトキハ監視ニ附セラレタル日ヨリ起算シテ五ケ年ヲ經過シタル後復權ノ願ヲ爲スヲ得ヘキモノトス〔復權願書式ハ書式第百六號ノ如シ〕

第三編　人事訴訟ニ關スル件

人事訴訟手續法ハ明治三十一年六月法律第十三號ヲ以テ公布セラレ婚姻事件養子緣組事件親子關係事件相續人廢除事件隱居事件禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル訴訟手續ヲ規定シタルモノトス

第一章　婚姻事件ニ關スル件

第一節　婚姻ノ無效及ヒ取消ニ關スル件

一　民法ニ依リ婚姻ノ取消シ得ヘキ塲合ハ左ノ如シ

イ　男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサル婚姻

ロ　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキ

ハ　女ハ前婚ノ消解又ハ取消ノ日ヨリ六ケ月ヲ經過セスシテ再婚シタルトキ尤モ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル塲合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ右ニ依ラサルモ差支ナシ

ニ　姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ相姦者ト婚姻シタルトキ

ホ　直系ノ血族又ハ三親等內ノ傍系血族ノ間ニ於ケル婚姻尤養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ差支ナシ

ヘ　直系姻族ノ間ニ於ケル婚姻但離婚及ヒ夫婦ノ一方カ死亡シタル塲合ニ於テ生存配偶者其家ヲ去リテ姻族關係カ止ミタル後ノ婚姻モ同シ

ト　養子其配偶者直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ

間ニ於テ離縁ニヨリ又ハ養親ノ離縁ニヨリ養子ト養親トノ關係及ヒ配偶者直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離縁ニヨリ養子ト共ニ其家ヲ去リタルニヨリ血族關係ノ止ミタル後ト雖トモ婚姻ヲ爲スコトヲ得サルニ拘ラス之ニ違背シテ爲シタル婚姻

チ　詐欺又ハ强迫ニ因ル婚姻

リ　婚養子縁組ノ場合ニ於テ縁組ノ無效又ハ取消ヲ理由トスル婚姻

二　取消ハ各當事者タル夫婦其戸主親屬又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得尤檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス猶ホハニノ場合ハ當事者ノ配偶者ヨリモ其取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

三　婚姻ノ無效ノ場合ハ左ノ如シ

イ　人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

ロ　當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲サヽルトキ

四　婚姻ノ無效ハ何人ヨリ裁判所ヘ訴フルモ差支ナシトス

五　婚姻ノ取消及ヒ無效ノ訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ナリトス

六　夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ取消又ハ無效ノ訴ハ其配偶者ヲ以テ相手方トス第三者カ提起スル右ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トス

七　婚姻事件ニ付テ普通民事訴訟ト異ナル點ハ其爭ハサル事實ハ自白シタルモノト看做サヽルヽ等ノコトナク又時機ニ後レテ提出スル證據等ニ付テモ成ルヘク採取セラルヽ等事鄭重ニ取扱ハルヽニアリ又必ス檢事ノ立會アルモノトス〔婚姻ノ取消及ヒ無效訴狀書式ハ書式第百七號第百八號ノ如シ〕

第二節　離婚ニ關スル件

八　離婚シ得ヘキ場合ハ左ノ如シ

イ　配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ

ロ　妻カ姦通ヲ爲シタルトキ

ハ　夫カ姦淫罪ニ因リ刑ニ處セラレタルトキ

ニ　配偶者カ僞造賄賂猥褻窃盜强盜詐欺取財受寄財物費消賍物ニ關スル罪若クハ官ノ封印ヲ破リテ物件ヲ盜取シ又ハ毀損シ若クハ賭

博ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

ホ 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

ヘ 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

ト 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

チ 配偶者ヨリ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲナシ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

リ 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

ヌ 婿養子緣組ノ場合ニ於テ離緣セラレタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離緣若クハ緣組ノ取消アリタルトキ

九 離婚ノ訴ハ夫婦ノ一方ヨリ提起スルコトヲ得ルモノトス尤イ乃至ニノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス猶イ乃至ト」ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキモ同シトス

一〇 離婚ノ訴ノ裁判管轄相手方及ヒ民事訴訟法ノ異同ノ點ハ前節ニ同シ〔離緣訴狀書式ハ書式第百十三號ノ如シ〕

第三節 夫婦同居ニ關スル件

一一 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負ヒ夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ストハ民法第七百八十八條ノ規定スル所ナリ夫婦同居ノ訴ニ關スル裁判管轄其他ハ前節ニ同シ〔夫婦同居ヲ目的トスル訴狀書式ハ書式第百十號ノ如シ〕

第二章 養子緣組事件ニ關スル件

第一節 緣組ノ無效及ヒ取消ニ關スル件

一二 緣組無效ノ場合ハ左ノ如シ

イ 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ緣組ヲ爲ス意思ナキトキ

ロ 當事者カ緣組ノ屆出ヲ爲サヽルトキ但其屆出ニシテ當事者双方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ爲サヽルモ效アリ

一三 緣組ノ取消シ得ヘキ場合ハ左ノ如シ

イ 未成年者ノ養子ヲ爲ストキ

ロ 尊屬又ハ年長者ヲ養子トナシタルトキ
ハ 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者男子ヲ養子ト爲スト キ但女婿ト爲スヲ爲メナルトキハ此限ニアラス
ニ 後見人カ被後見人ヲ養子ト爲スト キ
ホ 配偶者タルモノ其配偶者ニ關セス養子ヲ爲スト キ
ヘ 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニ其家ニ在ル父母カ同意ナキト キ
ト 緣組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルト キニ實家ノ父母ノ同意ナキト キ
チ 父母ノ一方カ知レサルト キ死亡シタルト キ家ヲ去リタルト キ又ハ其意思ヲ表示スルヿ能ハサルト キニ他ノ一方ノ同意ナキ ト キ又ハ父母共ニ知レサルト キ死亡シタルヿ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ナレハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ナキト キ
リ 繼父母又ハ嫡母カ子ノ養子緣組ニ同意セサルト キニ子カ親族會ノ同意ヲ求メタルトキ
ヌ 婿養子緣組ノ場合ニ於ケル婚姻ノ無效又ハ取消ヲ理由ト爲スト キ

右「イ」ノ場合ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六ケ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス(民法第八五三條)
「ロ、ハ」ノ場合ハ各當事者其戸主親屬ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得ニノ場合ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終リタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ケ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ非ラス
「ホ」ノ場合ハ同意ヲ爲サヽリシ配偶者ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得但配偶者カ緣組アリタルコトヲ知リタル後六ケ月ヲ經過スルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス
「ヘ乃至リ」ノ場合ハ緣組ニ同意ヲ爲スヘキ權利ヲ有スル者ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得
「ヌ」ノ場合ハ各當事者ヨリ緣組取消ノ請求ヲ爲スヲ得ルモノトス

一四　養子縁組ノ無效及ヒ取消ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ニ於テ管轄スルモノトス〔縁組無效ノ訴狀書式ハ書式第百十一號取消訴狀書式ハ書式第百十二號ノ如シ〕

第二節　離緣ニ關スル件

一五　離緣スヘキ場合ハ左ノ如シ

イ　他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

ロ　他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

ハ　養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

ニ　他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

ホ　養子ニ家名ヲ濟シ又ハ家產ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

ヘ　養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ

ト　養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

チ　他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

リ　婿養子緣組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

右取消ハ養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ緣組ニ付承諾權ヲ有スル者ヨリ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ

「イ乃至リ」ノ場合ハ當事者ノ一方ヨリ爲スモノトス

一六　離緣ノ訴ニ係ル裁判管轄ハ前節ニ同シ〔離緣ノ訴狀書式ハ書式第百九號ノ如シ〕

第三章　親子關係事件

一七　妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定スルハ民法第八百三十條ニ規定セラルヽ所ナリ而シテ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定セラルヽナリ

一八　前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ケ月ヲ經過セスシテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ其子ノ父不明ナルトキハ裁判所ニ於テ定ムルモノトス夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得ルノ權

利アリ是レ誤謬ナキヲ保セサレハナリ

一九　右否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對シテ之ヲ行フ尤モ夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ニ申請シテ特別代理人ノ選任ヲ乞フ可キモノトス〔特別代理人選任申請書式ハ書式第百三十二號ノ例ニ同シ〕

二〇　否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ起ス可キモノトス尤モ夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ否認權ヲ失フモノトス〔子ノ否認訴狀書式ハ書式第百十四號ノ如シ〕

二一　私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ庶子トス其父又ハ母カ無能力者ナルトキニ於テモ法定代理人ノ同意ヲ受クルコトナクシテ之ヲ認知スルコトヲ得其子ニシテ成年ナルトキハ其子ノ承諾アルヲ要ス父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ認知スルコトヲ得ルナリ此場合ハ母ノ承諾ヲ要ス以上二個ノ場合ニ於テ承諾ナキトキハ出訴スルコトヲ得ヘシ父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬ナルトキハ認知スルコトヲ得又認知ハ遺言ニヨリテモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

二二　私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ其效アリトス

二三　子ノ否認認知又ハ認知ノ無效若クハ取消又ハ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ訴フルモノトス

二四　夫カ禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

二五　父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ五ニ其相手方トナル子又ハ母カ提起スル訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トス〔子ノ認知認知ノ無效取消訴狀書式ハ書式第百十五號第百十六號ノ如シ〕

第二節　親權事件

二六　親權トハ子カ成年ニ達シ獨立ノ生計ヲ營ムニ至ルマテ之ヲ監護シ敎育シ懲戒ヲ施ス等其家ニ在ル父又ハ母ノ有スル權利義務ニシテ

父ナキトキハ母之ヲ行ヒ繼父繼母ナルトキハ後見人ト同一ナラシメ後見監督人ノ如キモノヲ置キ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ行ハシムルノ規定ナリ

二七　親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ塲合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ヘキモノトス

二八　親權喪失ノ塲合ハ左ノ如シ

イ　父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シキ不行跡アルトキ

ロ　親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危クシタルトキ

右二個ノ塲合ハ子ノ親屬又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ其親權ノ喪失ヲ宣告シ財產管理ノ塲合ハ其管理權ノ喪失ヲ宣言セラルヽモノトス子自ラ父ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ許サヽルハ道德上法律上ヨリ見ルモ至當ノ事ト謂フ可シ

二九　親權若クハ財產管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ

ノ男ト嫡出子ノ男トアレハ年齡ニ拘ラス嫡出子ヲ先ニス私生子ノ女ト嫡出子ノ女トアルモ亦嫡出子ノ女ヲ先ニス

ニ　親等ノ同シキ嫡出子庶子及ヒ私生子ノ間ニ在テハ嫡出子庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス例ヘハ嫡出子ノ女ト私生子ノ男トアルトキハ年齡ニ拘ラス嫡出子ノ女ヲ先ニス縱令其女カ庶子ナルモ亦同シ

ホ　前四個ノ塲合ニ於テ相同シキ者ノ間ニ在テハ年長者ヲ先ニス例ヘハ長男ニ男アレハ長男ヲ先ニスルニアリ私生子ノ男二人アルモ其年長ヨリシ嫡出子ノ女二人アルモ同シ

庶子カ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲リ又ハ私生子カ父母ノ認知ニ因リテ嫡出子ト爲リ又ハ養子カ嫡出子ト同一ノ地位ニ爲ル塲合ハ何レモ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生レタルモノト看做サル又戶主ノ親族ニシテ他家ヨリ入リタルモノハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ卑屬ナキトキニ限リ「イ乃至ニ」ノ順序ニ依リテ家督相續人ト爲ル以上ノ家督相續人タルヘキ者カ相手ノ開始前ニ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒ

親權ヲ行フモノカ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄トス

三〇 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス〔親權喪失ヲ目的トスル訴狀及ヒ財產管理權喪失ヲ目的トスル訴狀失權取消ノ訴狀財產管理權喪失宣言取消訴狀書式ハ書式第百十七號乃至第百二十號ノ如シ〕

第四章 相續人廢除ニ關スル件

三一 相續ニハ二種アリテ一ハ法定推定家督相續人ニシテ一ハ推定遺產相續人トス其區別左ノ如シ

法定ノ推定家督相續人ハ被相續人ノ家族タル直系卑屬ニシテ左ノ規定ニ從フ

イ 親等ノ異リタル者ノ間ニ在テハ其近キ者ヲ先ニス例ヘハ子ト孫トアレハ子ヲ孫ヨリ先ニスヘキモノトス

ロ 親等ノ同シキ者ノ間ニ在テハ男ヲ先ニス例ヘハ女子ト男子トアルトキハ年齡ニ拘ラス男子ヲ先ニス

ハ 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在テハ嫡出子ヲ先ニス例ヘハ庶子

タルトキハ其卑屬アレハ順序ヲ以テ家督相續人トナルモノトス

三二 法定ノ遺產相續人ハ被相續人ノ直系卑屬ニシテ左ノ規定ニ依ルヨリ先ニス

イ 親等ノ異リタル者ノ間ニ在テハ其近キ者ヲ先ニス例ヘハ子ト孫

ロ 親等同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル例ヘハ子二人アレハ年齡ト男女ノ區別ナク二人共相續人ト爲ルヘシ

右ノ遺產相續人ナキトキ又ハ相續權ヲ失ヒタルトキハ其者ノ直系卑屬ハ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル例ヘハ長男二男アリ長男ニシテ孫ヲ殘シテ死亡セハ遺產相續ハ長男ノ長男タル孫ト二男タル子ト分配スルカ如シ(民法第九九五條)

右ノ規定ニ依リテ遺產相續人ナキトキハ左ノ順次ニ依ル

イ 配偶者

ロ 直系卑屬ノ

ハ 戶主

右ロノ場合ハ親等ノ異リタルモノハ其近キモノヨリシ親等ノ同シキ

モノハ同順位ニ於テ相續人トナルモノトス

三三　左ノ事項ノ一アルトキハ家督相續人又ハ遺産相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ

推定家督人廢除事項（民法第九七五條）

イ　被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

ロ　疾病其他身体又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

ハ　家名ニ汚辱ヲ及スヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

ニ　浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキトキ

ホ　正當ノ事由アリテ被相續人ニ於テ親族會ノ同意ヲ得タルトキ

推定遺産相續人ノ廢除事項

一　被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

右何レノ場合ニ於テモ被相續人ニ於テ廢除ヲ裁判所ヘ請求スルコトヲ得ルモノトス

三四　推定家督相續人廢除ノ取消ハ其原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ヨリ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

三五　推定家督相續人若クハ推定遺産相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄トス

三六　廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス（推定家督相續人推定遺産相續人廢除及ヒ廢除取消訴狀書式ハ書式第百二十一號乃至第百二十三號ノ如シ）

第五章　隱居事件ニ關スル件

三七　戸主タルモノ隠居ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備セサレハ之ヲ許サス(民法第七五二條)

イ　滿六十年以上ナルコト

ロ　完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト(單純承認トハ限定承認ニ對スル語ニシテ限定承認トハ前戸主ノ財産ヲ限度トシテ前戸主ノ債務ヲ負擔スル相續ヲ云ヒ單純承認トハ前戸主ノ財産如何ニ拘ラス凡テ前戸主ノ債務ヲ負擔スルヲ云フ)

右ノ外戸主カ疾病本家ノ相續又ハ再興其他已コトヲ得サル事由ニ因リテ家政ヲ執ルコト能ハサルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得ヘシ尤法定ノ推定家督相續人ナキトキハ豫メ之ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

三八　以上二個ノ場合ニ違反シタル隠居者ノ親屬及ヒ檢事ヨリ隠居屆出ノ日ヨリ三ケ月内ニ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ

三九　戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ右ト同シク裁判所ノ許可ヲ受ケ相續人ヲ定メテ承諾ヲ受ケサル可ラス女戸主ハ年

齢ニ拘ラス隠居ヲ爲スコトヲ得但有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス若シ夫ノ同意ヲ得サル隠居ハ夫ヨリ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトス

四〇　詐欺脅迫ニヨル隠居ハ詐欺ヲ發見シ又ハ脅迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得追認ヲナシタルトキハ此限ニ非ラス若シ詐欺ヲ發見セス脅迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得其請求ノ後隠居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ消滅ス右二個ノ場合ハ隠居屆出ノ日ヨリ十年ヲ經過セハ時效ニヨリテ消滅ス

四一　隠居ノ無效ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隠居者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄トス

四二　隠居者カ提起スル隠居ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス家督相續人カ提起スル右ノ訴ニ於テハ隠居者ヲ以テ相手方トス

第六章　禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル件

四三　心神喪失ノ常況ニアル者ニ付テハ本人本人ノ配偶者（即チ夫ノ妻ニ於ケル妻ノ夫ニ於ケルカ如シ）及ヒ四等親内ノ親族（即チ祖父母父母伯叔父母子孫玄孫從兄弟姉妹等ヲ包含ス）戸主後見人保佐人又ハ撿事ノ申立ニヨリ禁治産ノ宣告ヲ爲スモノトス（民法第七條）其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ

四四　妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ要セサルモノトス是レ夫ノ許可ヲ得ルコト能ハサルカ故ナリ

四五　禁治産ノ宣告アリタルトキハ其禁治産者ハ宣告ヲ知リタル日ヨリ其他ノ人々（禁治産ヲ申立ツルコトヲ得ル者）ハ決定ノ效力ヲ生シタル日ヨリ起算シテ一ケ月内ニ其決定シタル區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ノ訴ヲ爲スコトヲ得

四六　禁治産ノ原因止ミタルトキハ何時ニテモ之カ宣告取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得若シ其申立ヲ却下セラレタルトキハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

四七　禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

四八　禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

〔禁治産宣告申立書同宣告不服ノ訴狀同取消申立書同取下ノ却下ニ對シ不服ノ訴狀書式ハ書式第百二十四號乃至第百二十六號ノ如シ〕

四九　準禁治産者ハ左ノ如シ

イ　心神耗弱者
ロ　聾者
ハ　唖者
ニ　盲者
ホ　浪費者

右取扱ハ概シテ禁治産者ニ同シ

第七章　失踪ニ關スル件

五〇　失踪ノ宣告ヲ受クヘキ塲合ハ左ノ如シ

イ　不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキ

ロ　戰地ニ臨ミタル者沈沒シタル船舶中ニ在リシ者其他危難ニ遭遇シタルモノ、生死カ戰爭ノ止ミタル後船舶ノ沈沒シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間不分明ナルトキ

五一　失踪ノ申立ハ利害關係人即チ相續スヘキ人ノ如キ債權者ノ如キ失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ右ノ期間即チ七年ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做サル

人々ヨリ裁判所ニ申立ツヘキモノトス〔失踪宣告公示催告申立書ハ書式第百二十七號ノ如シ〕

五二　裁判所ハ右申立ニヨリ民法第七百六十五條以下ニ依リテ公示催告ヲ爲スモノトス公示催告ハ六ケ月以上ノ期間之ヲ公告ス其期間ヲ經過スルトキハ失踪ノ宣告アランコトヲ申立ツルモノトス其不在者ニシテ出生後一年以上ノモノナルトキハ公告ノ日ヨリ二ケ月以上ヲ以テ十分ナリトス〔失踪宣告申立書式ハ書式第百二十八號ノ如シ〕

失踪宣告申立ニ對シ却下セラレタルトキハ即時抗告ヲ爲スニトヲ得

五三　失踪宣告ノ判決ニ對シテハ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ其人々ハ利害關係人ニシテ其管轄スル地方裁判所トス

ヲ管轄スル地方裁判所トス

其不服ノ訴ヲ起スヘキ場合ハ左ノ如シ

イ　法律ニ於テ未タ公示催告ヲ許スヘキ場合ニ非サルトキ

ロ　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サヽルトキ

ハ　公示催告ノ期間ヲ守ラサルトキ

ニ　判決ヲ爲ス判事カ〔法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

ホ　生存ノ屆出アリタルニ拘ラス判決ニ於テ其屆出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

〔失踪宣告判決ニ對シ不服ノ訴狀書式ハ書式第百二十九號ノ如シ〕

五四　失踪者ノ生存スルコト又ハ七年間若クハ三年間ト定メタル時ト異リタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利

害關係人ノ請求ニ依リ該失踪ノ宣告ヲ取消スコトアルヘキモ其以前ニ於テ善意ヲ以テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セサルモノナリ故ニ失踪ノ宣告ニヨリ財產ヲ得タル者ハ其取消ニヨリ權利ヲ失踪モ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其財產ヲ返還スヘキ義務アルノミ別ニ消費セシモノニ付テハ賠償スルニ及ハサルモノトス例ヘハ其失踪者ノ財產ヲ相續シタル者カ其財產ヲ賣買シタリトセハ其行爲タル毫モ咎ムヘキ所ナキカ如シ故ニ現ニ利益ヲ受クル限度ニ止マリ其間消費シタル財產マテ追徵セラルヽカ如キコトナシトス

五五　右宣告取消ハ判決ニ對スル不服ノ訴ヲ以テ請求スヘキモノトス但失踪者ニ於テ生存シ居ルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ何時ニテモ訴ヲ爲シ得ヘキモ失踪判決ヲ知リタル日ヨリ一ケ月內ニ起サヽルヘカラス判決ノ日ヨリ五ケ年ノ滿了後ハ訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス

第四編　非訟事件手續法

第一章　總則

一　民法上法人ノ理事及清算人ノ選任解任及ヒ特別代理人財產管理人ノ任免權限外ノ處分裁判上ノ代位證書保存供托鑑定競賣辨濟充當ニ關スル件隱居家督相續ノ許否親族會召集遺言ノ確認檢認及ヒ遺言執行者ノ選任等及ヒ是等ニ關スル費用負擔ノ方法ハ本法ノ定ムル所ニシテ明治三十一年六月十五日法律第十四號ヲ以テ公布セラル

二　非訟事件手續法ノ裁判管轄ハ住所ニヨリテ定マル若シ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居住地ノ裁判所ヲ以テ管轄トス

居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ノ管轄トス最後ノ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄トス相續開始地ノ裁判所カ管轄ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所之ヲ管轄ス

三 管轄裁判所ノ指定ハ左ノ場合ニ於テス

イ 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得サルトキ例ヘハ一人ノ區裁判所判事カ法律上除斥或ハ病氣等ニテ執務スルコト能ハサル場合ノ如シ

ロ 數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付疑アルトキ

右ノ場合ハ書面又ハ口頭ニテ直近上級ノ裁判所ヘ指定ノ申請ヲ爲スヘキモノトス

四 裁判所職員ノ除斥ハ民事訴訟ノ規定ヲ準用ス

五 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得ルモ自身出頭ヲ命セラレタルトキハ代理ヲ以テスルコトヲ得サルモノトス

他人ニ委任シテ代理セシムル場合ハ委任狀ヲ要ス若シ裁判所ニ於テ私書證書タル委任狀ニ認證ヲ受クヘキ旨命セラレタルトキハ公正役場ニ於テ認證ヲ受ケサルヘカラス

六 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ルモノトス

七 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名捺印スヘキモノトス

一 申立人ノ氏名住所

二 代理人ニ依リテ申立ヲナストキハ其氏名住所

三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實

四 年月日

五 裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添付スヘキモノトス

八 期日期間疏明ノ方法證人及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟ノ規定ハ非訟事件ニ準用セラル

九 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

一〇 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メラレタル場合ノ外申立人ノ負擔トス檢事カ申立ヲ爲シタル場合ハ國庫ノ

負擔トス

一一　裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキモノニ非ラサル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトアルモノトス

一二　共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ハ平等ニ費用ヲ負擔ス尤モ共同人ノ利害ノ關係著シク異ナルトキハ其利害關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシメラルヽコトアリ

一三　費用ノ裁判ニ對シテ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得尤モ本事件ヲ包マスシテ費用ノ點ノミニ限リタル裁判ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

一四　費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キ民事訴訟法ノ規定ニヨリ强制執行ヲ爲スコトヲ得但簡略ヲ主トシ執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルヲ要セサルモノトス

一五　本章ニ於ケル申立トハ申立申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二章　民事非訟事件

第一節　法人ニ關スル件

一六　民法第三十七條ニ依ルニ社團法人(祭祀宗教慈善學術技藝其他公益ニ關スル財團ニシテ營利ヲ目的トセス主務官廳ノ許可ヲ得テ法人ト爲シタルモノナリ)ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要スルモノトス

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　資本ニ關スル規定
五　理事ハ任免ニ關スル規定
六　社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

一七　財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行爲ヲ以テ前項第一乃至第五ニ揭ケル事項ヲ定ムルモノトス若シ其設立者カ其名稱事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ定ムルモノトス尤モ利害關係人ヨリ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘ

キモノトス〔其申請書式ハ書式第百三十號ノ如シ〕

右法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セサリシトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

一八　法人ハ無形人ナリ故ニ之ヲ運轉スルノ機關ナカル可ラス理事ハ即チ之カ機關ニシテ又其代表者ナリ若シ理事ノ欠ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ假理事ヲ選任スルモノトス利害關係人トハ債權者及ヒ相續人等ヲ云フ〔假理事選任申請書式ハ書式第百三十一號ノ如シ〕

一九　理事ニシテ法人ノ利益ヲ自己ノ利益ト相反スルトキハ如何ニスヘキヤ到底双方ノ利益ヲ保持スルコト能ハサルナリ此場合ハ理事ニ代理權ナキカ故ニ前項ノ例ニヨリ特別代理人ノ選任ヲ裁判所ニ請求スヘキモノトス其請求ヲナスヘキモノ及ヒ裁判管轄ハ前項ニ同シ〔特別代理人選任申請書式ハ書式第百三十二號ノ如シ〕

二〇　法人カ解散シタルトキハ破產ノ場合ヲ除クノ外理事其清算人トナル尤モ定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定メアルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ例外トス若シ死亡退任等ニヨリ清算人ノ欠ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ是亦前項ノ例ニヨリ其選任ヲ裁判所ヘ請求スヘキモノトス其請求者及ヒ裁判管轄等前項ニ同シ〔清算人選任申請書式ハ書式第百三十三號ノ如シ〕

二一　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニヨリ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得ルモノトス重要ナル事由トハ不正ノ行爲及ヒ利害關係人ノ不利益ヲ及スカ如キ場合ノ如シ〔清算人解任申請書式ハ書式第百三十四號ノ如シ〕

二二　清算人ハ破產ノ場合ヲ除クノ外解散後一週間内ニ其氏名住所及ヒ解散ノ原因年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ主務管廳ニ届出ツヘキモノトス又清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其氏名住所ノ登記ヲナシ且主務官廳ニ届出スヘキモノトス

二三　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ法人ノ登記所ノ管轄トス

二四　清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任ヲ證スル書面ヲ添附ス

ヘキモノトス

二五　清算人ノ解任又ハ變更ノ登記ハ現任清算人ヨリ申請スヘク其申請書ニハ清算人ノ解任又ハ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘキモノトス

第二節　財産ノ管理ニ關スル事件

二六　從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財産ノ管理人ヲ置カサリシトキハ利害關係人(家督相續人配偶者債權者等ヲ云フ)ハ其財産ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトス本人ノ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキモ亦同シトス〔財産管理人選任申請書式ハ書式第百三十五號ノ如シ〕

二七　不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ管理人ヲ改任スルコトヲ得ルモノトス〔財産管理人改任申請書式ハ書式第百三十六號ノ如シ〕

二八　裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキトキハ利害關係人ニ意見ヲ聽クコトアルヘシ

二九　不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

三〇　裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

三一　管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ屆出ツヘキモノトス〔辭任屆書式ハ書式第百三十七號ノ如シ〕

三二　管理人ハ財產ノ目錄ヲ調製シ又裁判所ノ命令アル場合ハ財產ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキモノトス

三三　利害關係人ハ前項ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス

三四　管理人ハ管理ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ事務ヲ處理スヘキモノトス

三五　管理人ハ事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スヘキモノトス其收取シタル果實亦同シ

三六　管理人カ引渡スヘキ金錢又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自

已ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フヘキモノトス尙損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

三七 管理人カ必要ト認ムル費用ヲ出シタルトキハ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得又過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ不在者ニ對シ其賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

三八 利害關係人及ヒ管理人ハ裁判所ニ於テ財産ノ封印ヲ爲ス場合ニ立會フコトヲ得

三九 管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘキモノトス

一 調製ノ場所年月日及ヒ其理由

二 申立人ノ氏名住所

三 不動產ノ表示

四 動產ノ種類及ヒ數量

五 債權及ヒ債務ノ表示

六 帳簿證書其他ノ書類

財產ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人之ヲ保存シ其一通ハ裁判所ニ提出スヘキモノトス

四〇 裁判所ハ公證人ヲシテ財產ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目錄ヲ不充分ト認メタルトキモ同樣ナリ此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

四一 利害關係人ハ財產ノ目錄ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得ヘシ

四二 利害關係人ハ不在者ノ財產ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其期間ハ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算スルモノトス

四三 管理人ニシテ民法第百三條ノ規定ノ行爲ヲ爲サントスルトキ又ハ不在者ノ生死分明ナラサルトキニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置

キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘキモノトス(其許可申請書式ハ書式第百三十八號第百三十九號ノ如シ)

四四 無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ裁判所ハ子其親族又ハ檢事ノ請求ニヨリ其管理人ヲ選任スルモノトス第三者指定ノ管理人ノ權限カ消滅シ又ハ改任スル必要アル場合ニ第三者カ管理人ヲ指定セサルトキモ同シトス

四五 前項ノ裁判所ハ子ノ住所地ノ區裁判所之ヲ管轄シ第三者カ數人ノ子ニ財產ヲ與ヘタルトキニ其住所カ異ナルトキハ少年ノ子ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス又第三者カ被後見人ニ與ヘタル財產ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

四六 相續財產ノ管理及ヒ其保存ニ必要ナル處分ノ申請及ヒ保存ノ爲メ管理人ヲ選任シタル場合ニ其管理人カ權限外ノ行爲ヲ爲サントスル申請相續人ノ曠欠ノ場合ニ相續財產管理人ノ選任申請ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

四七 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ戶主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命セラレンコトヲ親族利害關係人ヨリ請求スルコトアリ廢除ノ遺言アリタルトキモ同樣ナリ此場合ハ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

四八 財產分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財產管理ニ付必要ナル處分ヲ命スルコトアリ此場合ハ財產分離ニ付第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第三節 裁判上ノ代位ニ關スル件

四九 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得ヘシ例ヘハ甲者アリ乙者ニ金千圓ヲ貸與シアリ然ルニ乙丙間ノ辨濟期限ハ到來スルモ甲乙間ノ期限ハ未タ到來セス若シ乙ニ於テ丙ヨリ辨濟ヲ受クルモ之ヲ消費シテ甲ニ返濟セス他ニ財產ナキ場合

ニ於テハ甲ハ債權ヲ害セラルヽニ至ル故ニ代位ナル方法ヲ設ケ甲カ乙ニ代リテ其權利ヲ行ヒ自己ノ債權ヲ保全スルニアリ

五〇 裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

五一 代位ノ申請ニハ六項ニ掲クル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘキモノトス

一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名住所

二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

〔裁判上代位申請書式ハ書式第百四十號ノ如シ〕

五二 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトアリ申請ヲ許可シタル裁判ハ債務者ニ告知アルヘク告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スヲ得サルモノトス

五三 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

其期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算スルモノトス

五四 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ敗者ヨリ支辨セシムルモノトス

第四節　保存供托保管及ヒ鑑定ニ關スル件

五五 民法第二百六十二條第三項ニヨル共有物ヲ分割シタル場合ニハ其物ノ最大部分ヲ受ケタルモノ其物ニ關スル證書ヲ保存スヘキモノ若シ最大部分ヲ受ケタルモノナキトキハ分割者ノ協議ヲ以テ保存者ヲ定ム協議調ハサルトキハ裁判所ニ申請シテ保存者ノ指定ヲ受クヘキモノトス〔證書保存者指定申請書式ハ書式第百四十一號ノ如シ〕

五六 右裁判所ハ共有物ヲ分割セシ地ノ區裁判所ノ管轄トス

五七 裁判所ハ裁判スル前ニ各共有者ヲ訊問スルモノトス

指定ヲナシタル手續ノ費用ハ共有者全員ノ負擔トス

五八 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ辨濟ノ目的物ヲ供托シテ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ヘシ

供託所ニ付法令ニ別段ノ定メナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供托所ノ指定及ヒ供托物保管者ノ選任ヲ爲スヘキモノトス

右ノ裁判所ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

債務履行地トハ意思表示ノ場所ノ外特定物ニアリテハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニシテ其他ノ辨濟ハ債權者現時ノ住所ナリトス

五九　裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スルモノトス

其費用ハ債權者ノ負擔トス

〔供托所指定申請書式ハ書式第百四十二號ノ如シ〕

六〇　供托物保管者ニ付テハ不在者財產ノ保管者ニ於ケル手續ヲ準用ス即チ左ノ如シ

裁判所ハ何時ニテモ保管者ヲ改任スルコトヲ得之ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

保管者辭任セントスルトキハ裁判所ニ屆出ツヘシ

保管者ハ供托者ノ承諾アルニ非レハ保管物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ保管セシムルコトヲ得ス

無償ナルトキハ保管物ハ自己ノ財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スノ責アリ

保管者ハ保管物ニ付第三者ヨリ訴ヲ起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク辨濟者ニ通知スヘキモノトス

保管者ハ保管物ヨリ生スル損害ノ賠償ヲ求ムル權アリ

保管物ノ返還ハ保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲ス但正當ノ事由ニ因リ場所ヲ轉シタルトキハ其場所ニ於テ返還スルモノトス

六一　辨濟ノ目的物カ供托ニ適セス又ハ其物ニ付滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供托スルコトヲ得ルモノトス其物ノ保存ニ付過分ノ費用ヲ要スルトキモ同シ

右ノ場合ハ債務履行地ノ區裁判所ニ請求シテ競賣ノ許可ヲ受クヘキモノトス〔競賣許可申請書式ハ書式第百四十三號ノ如シ〕

六二　動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スヘキモノトス

六三　右ノ裁判所ハ債務履行地ノ區裁判所ニシテ裁判所ニ債權者債務者ヲ訊問アルヘク手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

六四　鑑定ノ評價ニ附スル場合ハ左ノ如シ

イ　買戻附ノ賣買ニシテ賣主ノ債權者カ賣主ニ代リテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動產ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ扣除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルヲ得ル場合アリ此鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ハ不動產所在地ノ區裁判所ノ管轄ニシテ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス

ロ　限定承認相續人ニ於テ條件付債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スヘキモノトス此裁判ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄ニシテ費用ハ相續財產ノ負擔トス

ハ　限定承認相續人カ相續財產ヲ賣却スルノ必要アルトキハ競賣ニ付スヘキ筈ナルモ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ競賣ヲ止ムルヲ得ル場合アリ管轄裁判所及ヒ費用負擔ハ「ロ」ニ同シ

ニ　遺留分算定ニ關スル條件付又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定メサルヘカラス其管轄裁判所及ヒ費用ハ「ロ」ニ同シ

ホ　財產分離ヲ爲スニ際シ辨濟スヘキ條件付債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權アルトキハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ債權ノ割合ヲ定ムルコトアリ此裁判所ニシテ費用ハ相續財產ノ負擔トス

ヘ　相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財產カ相續人ノケタル第一審ノ裁判所ニシテ

固有財産ト混合セサル間ハ其債權者ハ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク此場合ハ「ロ、ハ」ノ手續ヲ爲スヲアルモノトス此裁判管轄及ヒ費用ハ「ホ」ニ同シ〔鑑定人評價申請書式ハ書式第百三十八號ノ如シ〕

六五　本節ニ記載スル撰定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

第五節　隱居廢家子ノ懲戒家督相續人及ヒ親族會ニ關スル件

六六　隱居ハ許可ヲ得スシテ爲スコトヲ得ル場合トアリ左ノ如シ

サルヘカラサル場合

許可ヲ得スシテ當然隱居ヲ爲スコトヲ得ル場合

イ　年齡六十年以上ニシテ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲シタルトキ

ロ　女ノ戶主タルモノハ年齡ニ拘ラス何時ニテモ隱居ヲナスコトヲ得但夫ノ同意ヲ得サルヘカラス

裁判所ノ許可ヲ得ル場合

イ　疾病ニ因リ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ

ロ　本家ノ相續ニ因リ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ

ハ　本家ノ再興ニ因リ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ

ニ　已コトヲ得サル事由ニ因リ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ

ホ　婚姻ニ因ヲテ他家ニ入ラントト欲スルトキ

右何レノ場合ニ於テモ法定ノ推定家督相續人ナカル可ラス若シアラサルトキハ豫メ家督相續人ヲ定メ其承諾ヲ得ヘキモノトス

六七　隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

六八　許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タル可キコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名捺印セシムヘキモノトス

〔隱居許可申請書式ハ書式第百四十五號第百四十六號ノ如シ〕

隱居ノ許可ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

六九 新ニ家ヲ立テタルモノハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得ルモ家督相續ニ因リテ戸主トナリタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス尤モ本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス

七〇 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

七一 利害關係人及ヒ檢事ハ許可ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

抗告ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十一條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ムルモノトス

〔廢家許可申請書式ハ書式第百四十七條ノ如シ〕

七二 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服スヘキモノトス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ例外トス父カ知レサルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フモノトス

繼父繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後見人ニ於ケル例ニヨルル

七三 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護敎育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フカ故ニ必要ナル範圍内ニ於テ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ懲戒場ニ入ルヽコトヲ得ルモノトス

七四 子ヲ懲戒場ニ入ルヽ期間ハ六ケ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ムルモノトス此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノトス

七五 子ヲ懲戒場ニ入ルヽ申請ハ親權ヲ行フ父又ハ母ニシテ後見人ニ於テ申請セントスルトキハ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス

〔子ノ懲戒處分申請書式ハ書式第百四十八號ノ如シ〕

七六 子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

七七 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親屬利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戸主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命スルコ

トアルモノトス廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シトス

右裁判管轄ハ廢除又ハ取消ヲ請求シタル第一審ノ裁判所ノ管轄トス

七八　法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキハ母、父母共ニアラサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一　配偶者但家女ナルトキ

第二　兄弟

第三　姉妹

第四　第一號ニ該當セサル配偶者

第五　兄弟姉妹ノ直系卑屬

家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ右ノ順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲サヽルコトヲ得ルモノトス

〔家督相續人選定順序變更申請書式ハ書式第百五十號ノ如シ〕

七九　右ノ裁判管轄ハ相續開始地ノ區裁判所ニシテ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

八〇　親屬及ヒ檢事ハ家督相續人選定許可ノ裁判ニ對シテ抗告スルコトヲ得

八一　親族中ニ家督相續人ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ選定スルコトヲ得ヘシ

〔家督相續人選定許可申請書式ハ書式第百五十一號ノ如シ〕

八二　親族會ヲ開クヘキ場合ニシテ民法規定ノ條項左ノ如シ

第七百五十一條第七百七十二條第七百七十三條第八百九條第八百四十三條第二項第八百四十六條第八百六十三條第八百八十六條第八百八十八條第九百五條第九百二十七條第九百二十九條第九百三十四條第九百二十二條第九百二十四條第九百二十五條第九百八十二條第九百八十五條

八三　親族會招集ヲ請求スルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ如シ

一　本人

二　戶主

三　親族
四　後見人
五　後見監督人
六　保佐人
八　利害關係人

七　檢事

以上記載ノ者ノ請求ニヨリ裁判所ニ於テ招集スルモノトス而シテ親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定スルモノトス

八四　無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマデ繼續シ最初招集ノ場合ノ外本人及ヒ其法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員之ヲ招集ス其他ハ必要ノ場合ニ開クモノニシテ裁判所ニ請求シテ招集スヘキモノトス

〔親族會招集申請書式ハ書式第百五十二號ノ如シ〕

八五　無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ニ關スル事件ハ無能力者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニシテ其費用ハ無能力者ノ負擔トス

八六　家督相續人ハ選定ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄ニシテ其費用ハ相續財產ノ負擔トス

八七　前二項ノ他ノ事件ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニシテ申請ニ相當スル裁判アリタル場合ハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔トス

八八　遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アルモノハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得ヘシ〔親族會員辭任ノ申請ヲ却下シタルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

八九　親族會ノ招集又ハ親族會員辭任ノ申請ヲ却下シタルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

九〇　親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ルヘキ裁判ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ〔親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判申請書式ハ書式第百五十四號ノ如シ〕

第六節　相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル件

九一　相續人ハ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ケ月內ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキモノトス尤此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ裁判所ニ於テ之ヲ伸長ス